

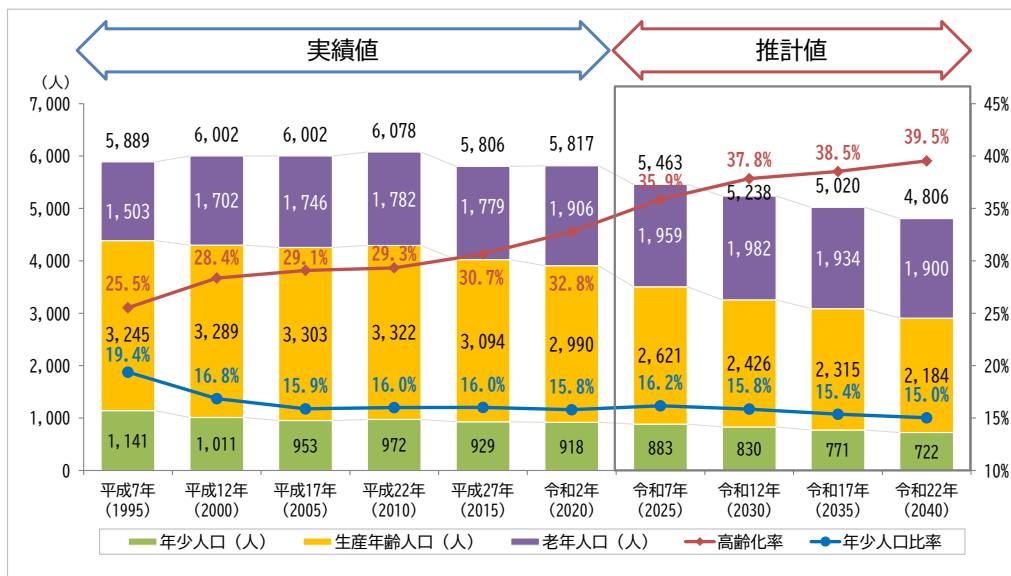
## 第2章 龍郷町の地域福祉を取り巻く現状と課題

### 1. 統計データからみる龍郷町の現状

#### (1) 人口の状況

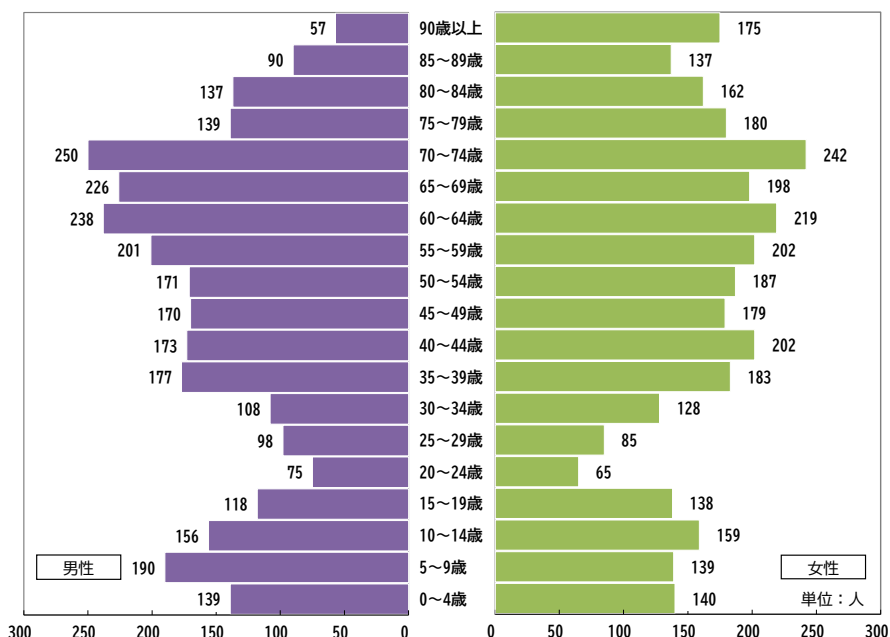
令和2年の国勢調査によると、総人口は5,817人となり前回調査時より11人増加しています。これを年齢3区分別にみると年少人口及び生産年齢人口は減少し、老年人口は増加しています。今後もこの傾向が続き人口の減少が見込まれ、老年人口も2030年をピークに減少に転じ人口減少が加速化することが予測されています。

#### ■年齢3区分別人口の推移と将来推計



出典：平成7年～令和2年は「国勢調査」総務省、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より

#### ■人口ピラミッド 令和4年1月1日 現在

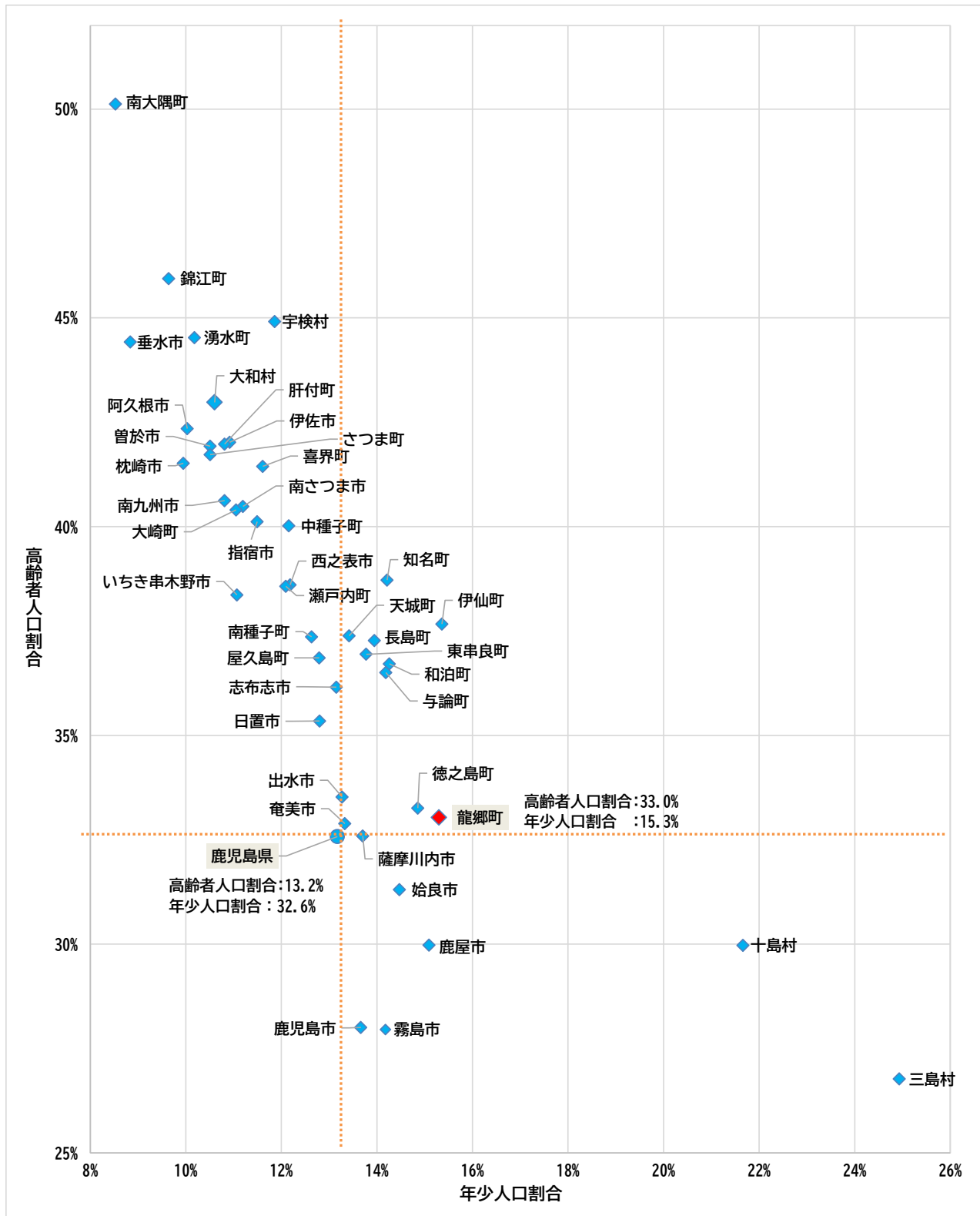


出典：総務省 住民基本台帳年齢階級別人口

少子高齢化の状況を見ると、年少人口割合は 15.3%となり、県平均より高く、県内でも上位に位置しています。

一方、高齢者人口割合は 33.0%となり、県平均より若干高くなっています。

■ 県内市町村別高齢者人口割合と年少人口割合



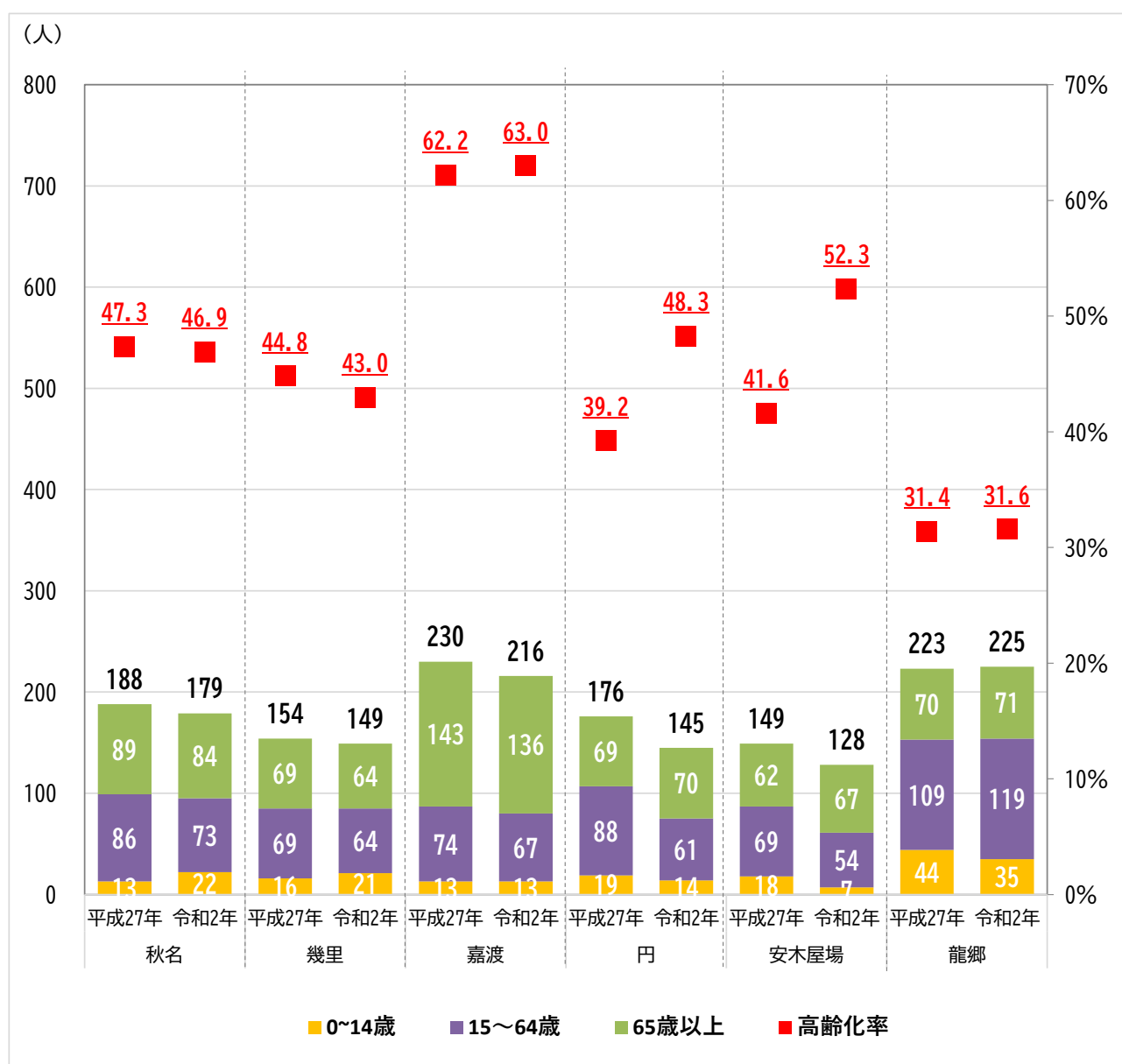
出典：総務省 住民基本台帳年齢階級別人口 令和4年1月1日 現在

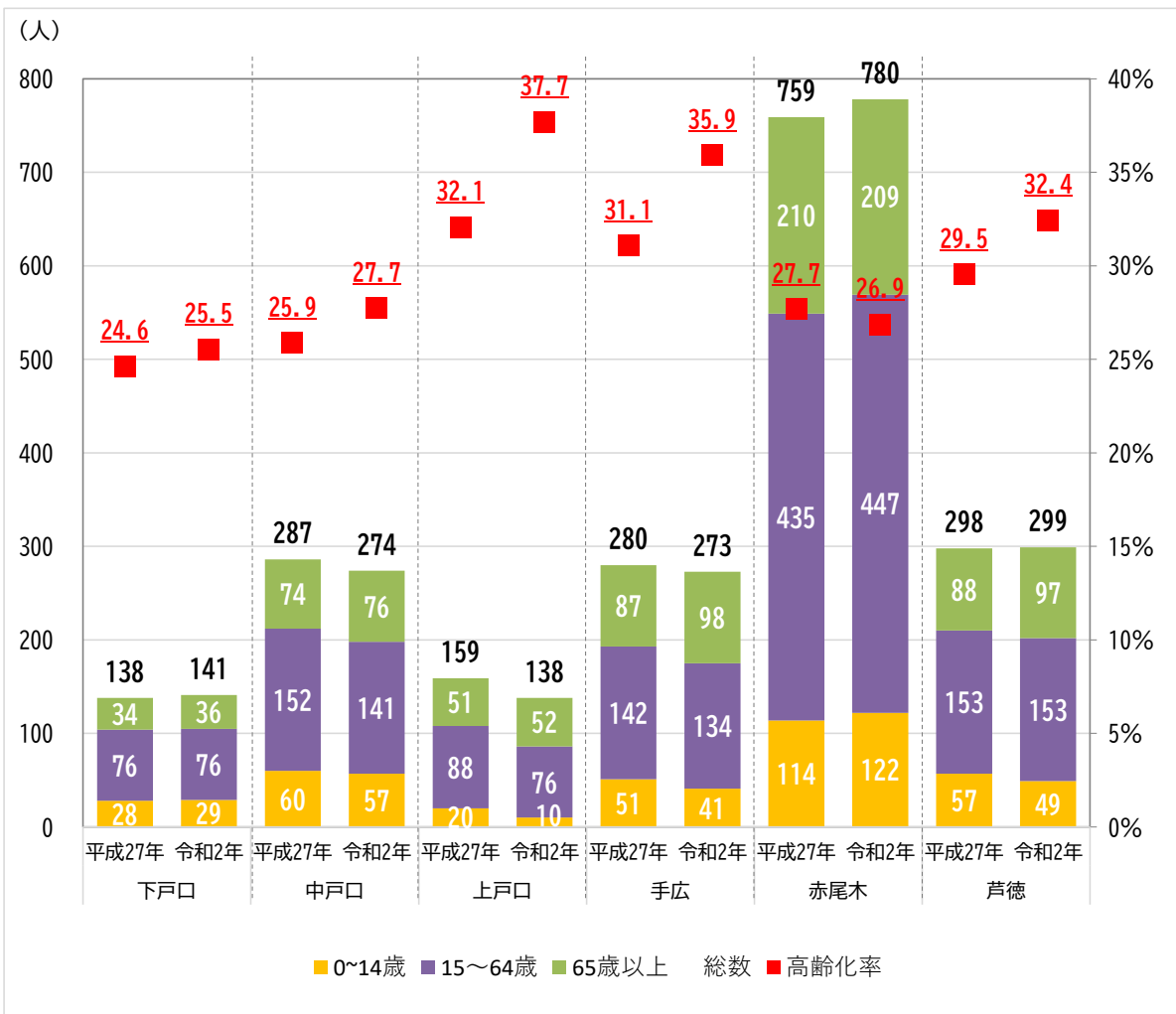
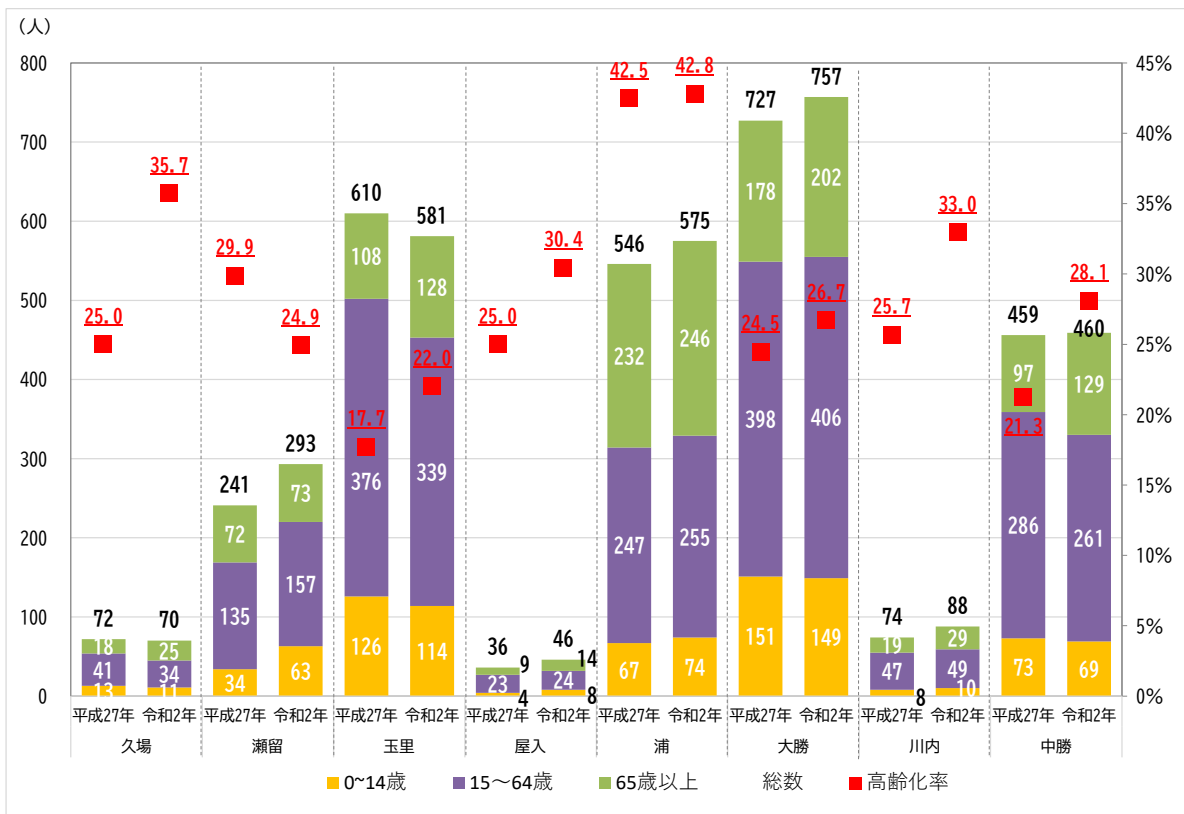
平成 27 年と令和 2 年の 20 集落別人口の状況を見ると、「龍郷」、「瀬留」、「屋入」、「浦」、「大勝」、「川内」、「中勝」、「下戸口」、「赤尾木」、「芦徳」の 10 集落において総人口は増加しています。

また、高齢化の状況を見ると、「秋名」、「幾里」、「嘉渡」、「円」、「安木屋場」、「浦」においては高齢化率が 4 割を超えており高齢化の進行が見られ、特に、「嘉渡」では高齢化率が 6 割を超えています。

一方、「瀬留」、「玉里」、「大勝」、「中勝」、「下戸口」、「中戸口」、「赤尾木」では、20% 台と低くなっています。

■地区別人口と高齢化率

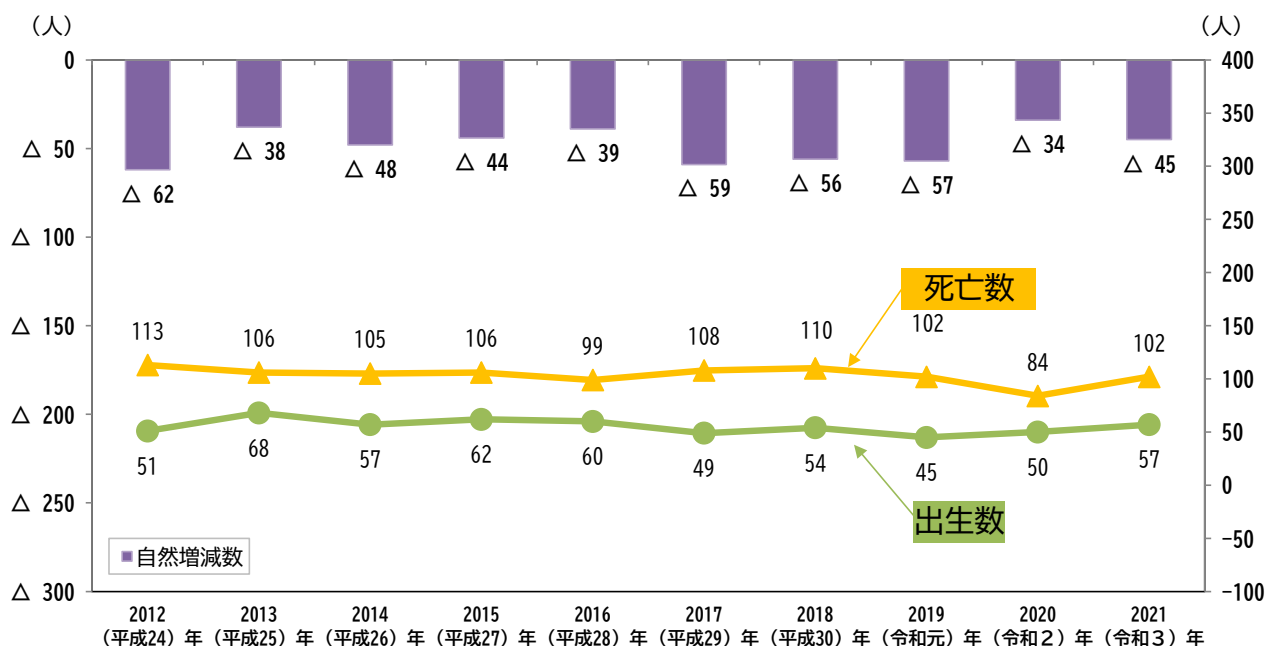




出典：国勢調査

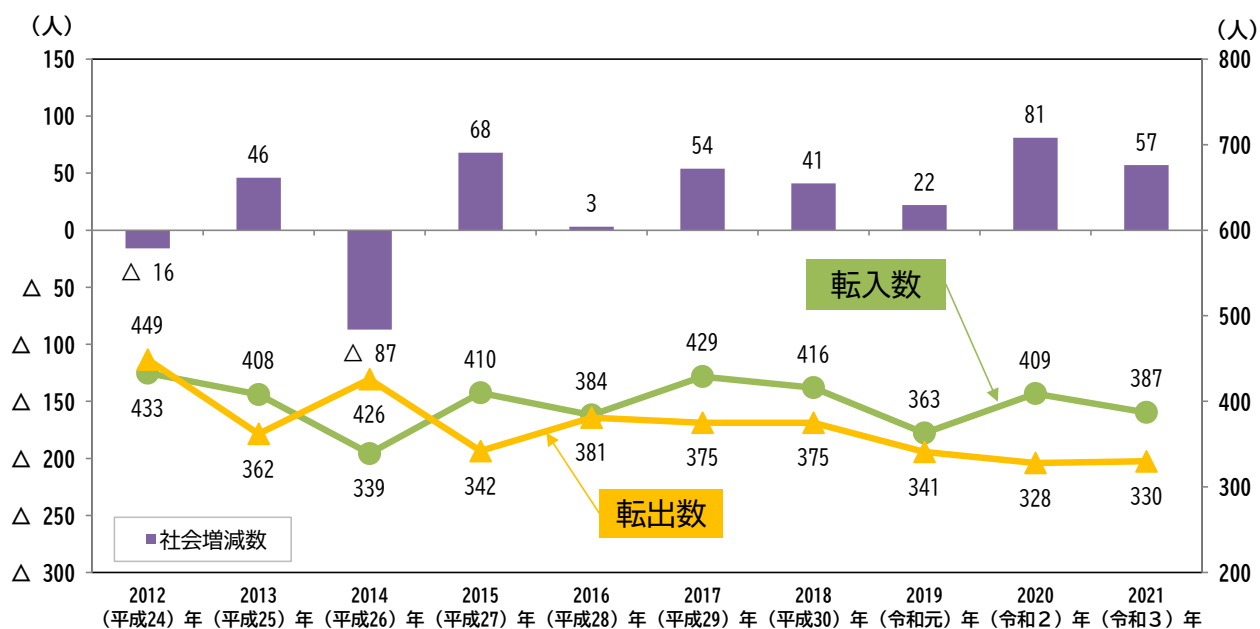
人口移動の推移をみると、自然増減は各年 50 人前後の減少となっています。  
一方、社会増減は平成 27 年以降転入超過が続いています。

■自然増減



出典：鹿児島県人口移動調査年報

■社会増減



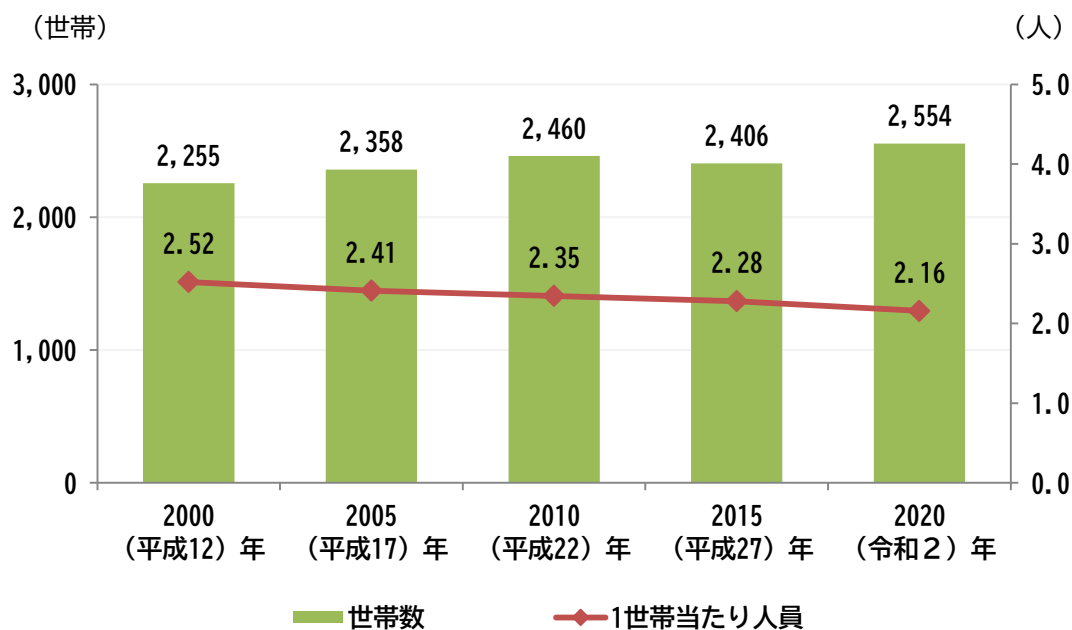
出典：鹿児島県人口移動調査年報

## (2) 世帯の状況

令和2年の世帯数は2,554世帯と前回調査より増加しています。一方、平成12年以降の1世帯当たりの人員数をみると一貫して減少しています。

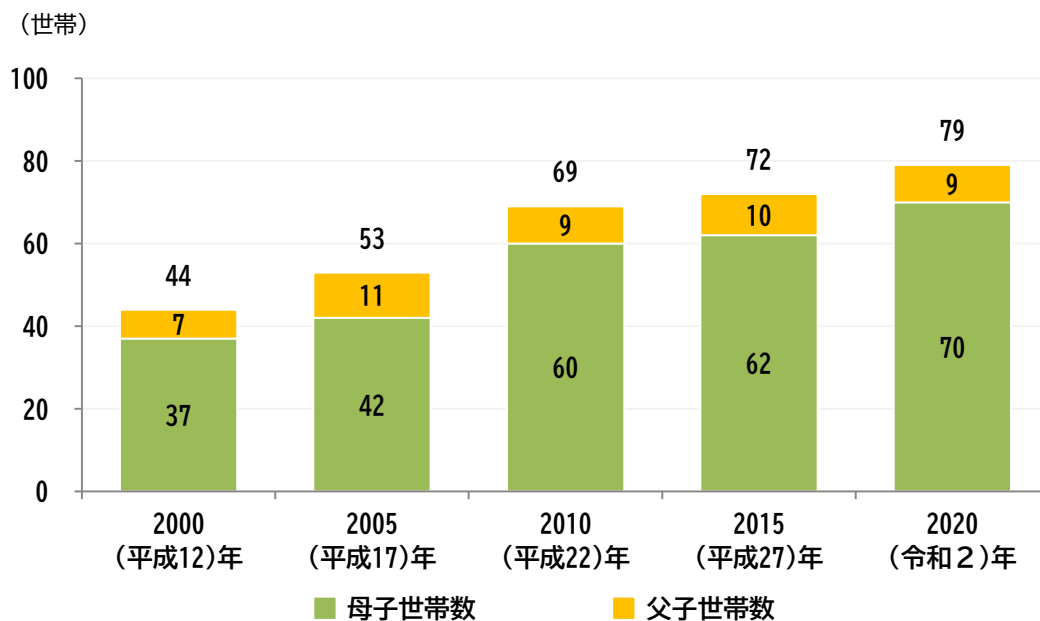
ひとり親世帯数の推移をみると、増加傾向にあり、令和2年では79世帯となっています。

### ■一般世帯数と一般世帯の1世帯当たり人員の推移



出典：国勢調査

### ■ひとり親世帯数の推移

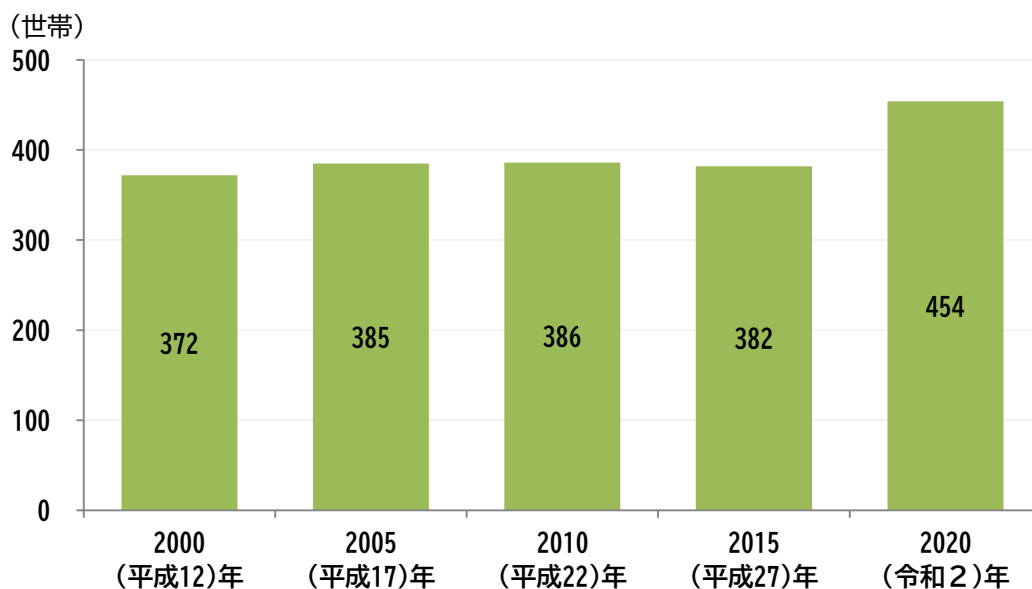


出典：国勢調査

高齢単身者世帯数の推移をみると、平成 27 年までは 380 世帯前後で推移していたものの、令和 2 年では 454 世帯と大幅に増加しています。

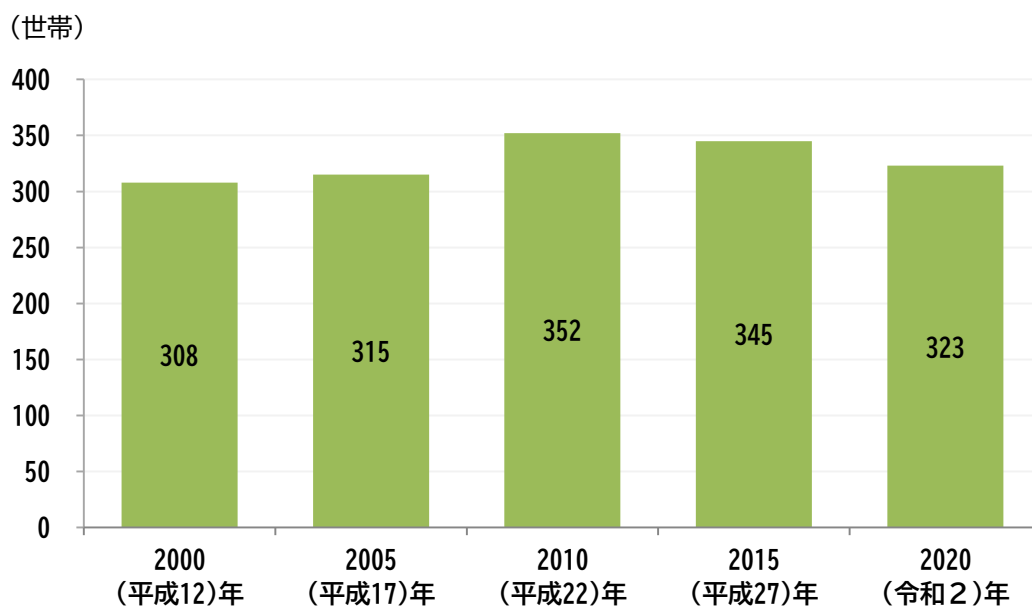
また、高齢夫婦世帯数の推移をみると、令和 2 年は前回調査より 22 世帯減少していることから、高齢者世帯の構成の変化が伺えます。

#### ■ 高齢単身者世帯数の推移



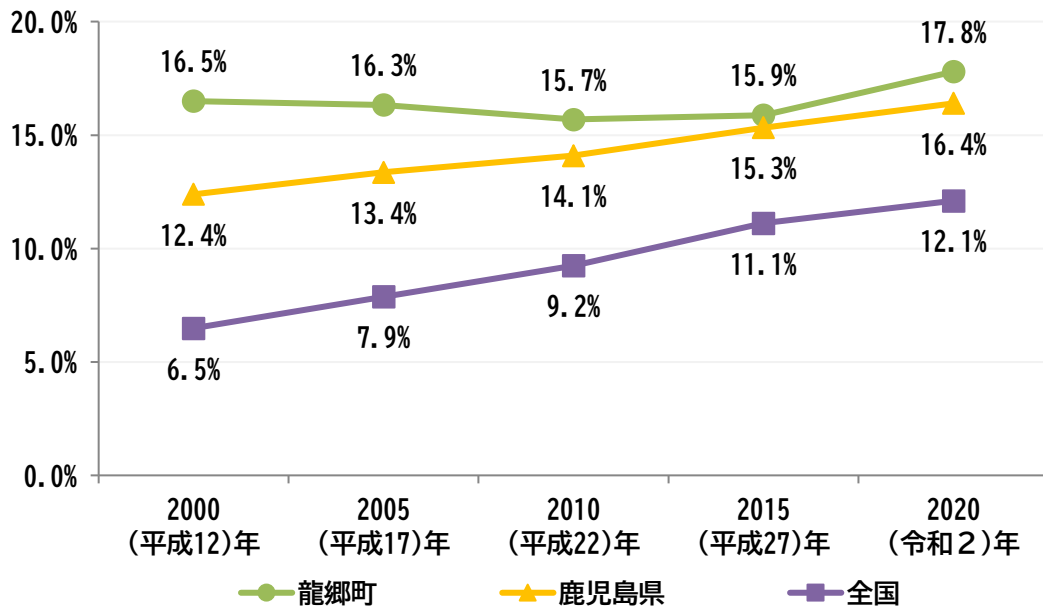
出典：国勢調査

#### ■ 高齢夫婦世帯数の推移



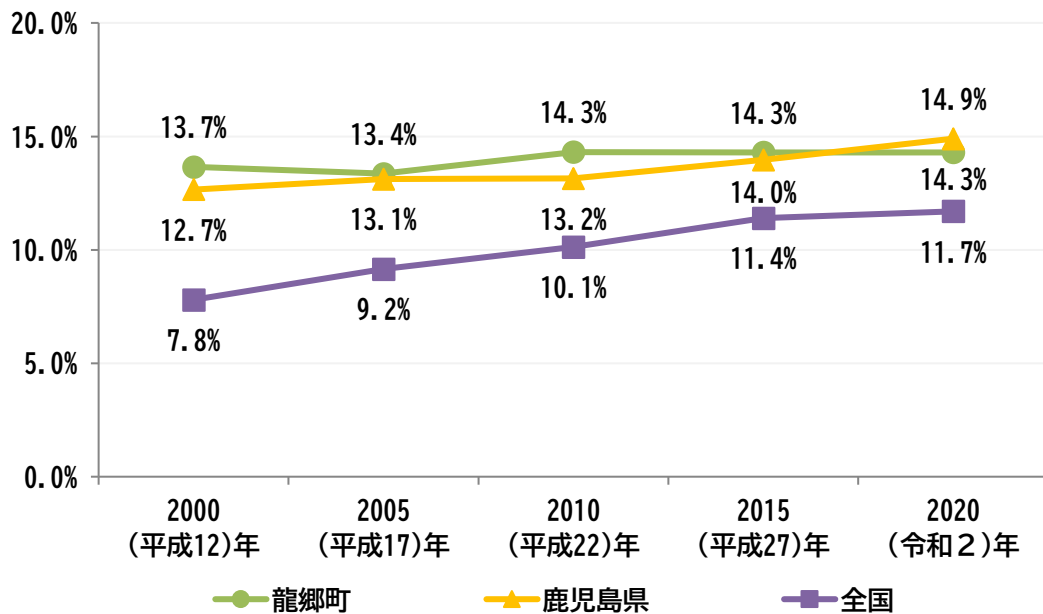
出典：国勢調査

■ 高齢単身者世帯割合



出典：国勢調査

■ 高齢夫婦世帯割合



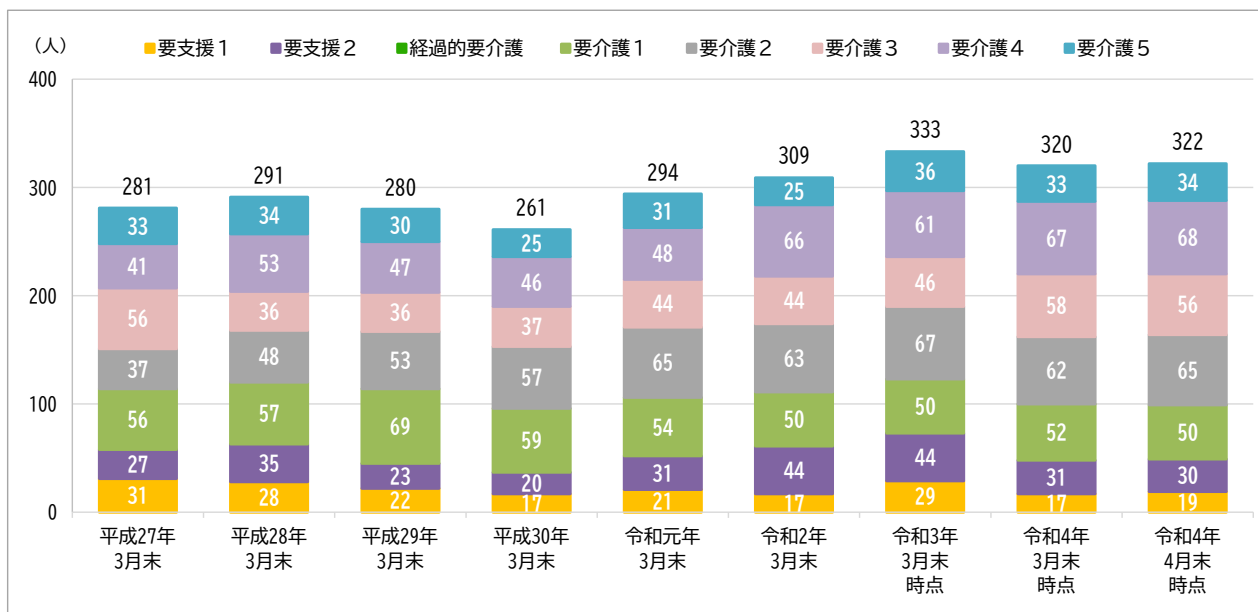
出典：国勢調査



### (3) 要支援・要介護認定者の状況

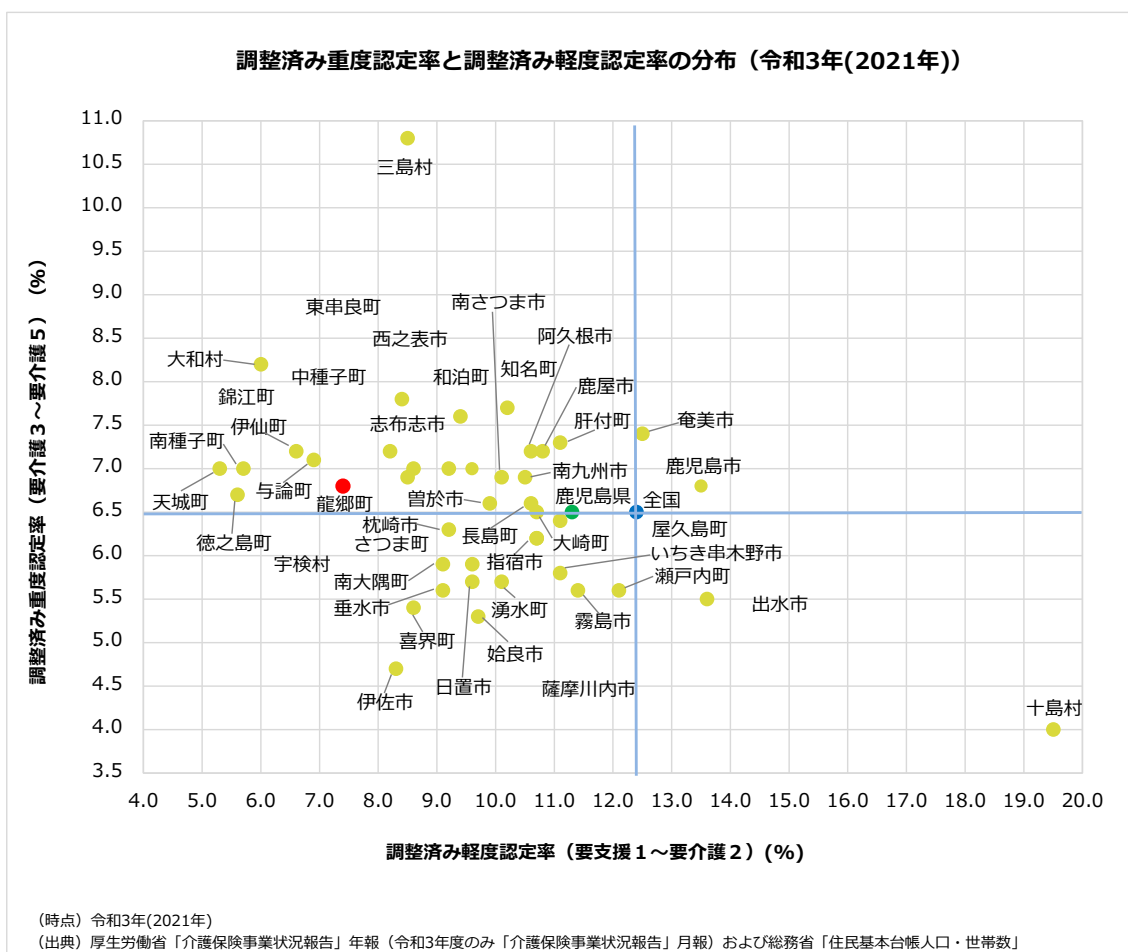
要介護度別認定者数の推移をみると、高齢化率の上昇を背景に増加傾向にあります。

#### ■要介護度別認定者数の推移



出典：地域包括ケア「見える化」システム（令和4年9月現在）

#### ■県内市町村別調整済み要介護認定率

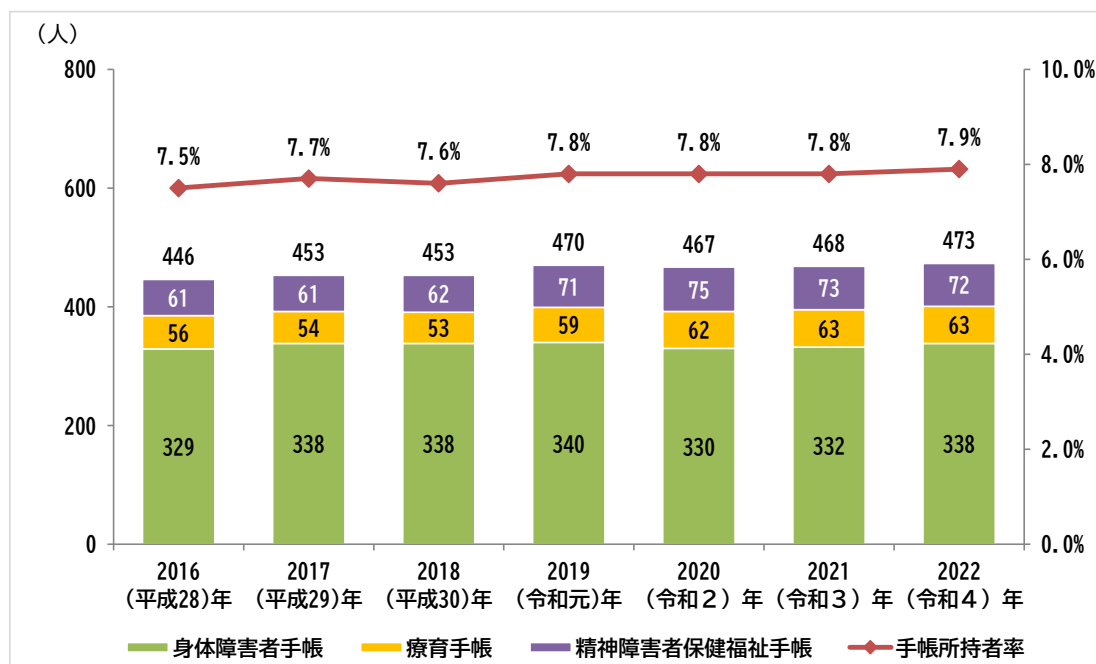


出典：地域包括ケア「見える化」システム（令和4年 月現在）

#### (4) 障がい者・児の状況

障害者手帳所持者数は、微増傾向で推移しています。手帳種別でみると、身体障害者手帳所持者は横ばい、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は、やや増加傾向で推移しています。

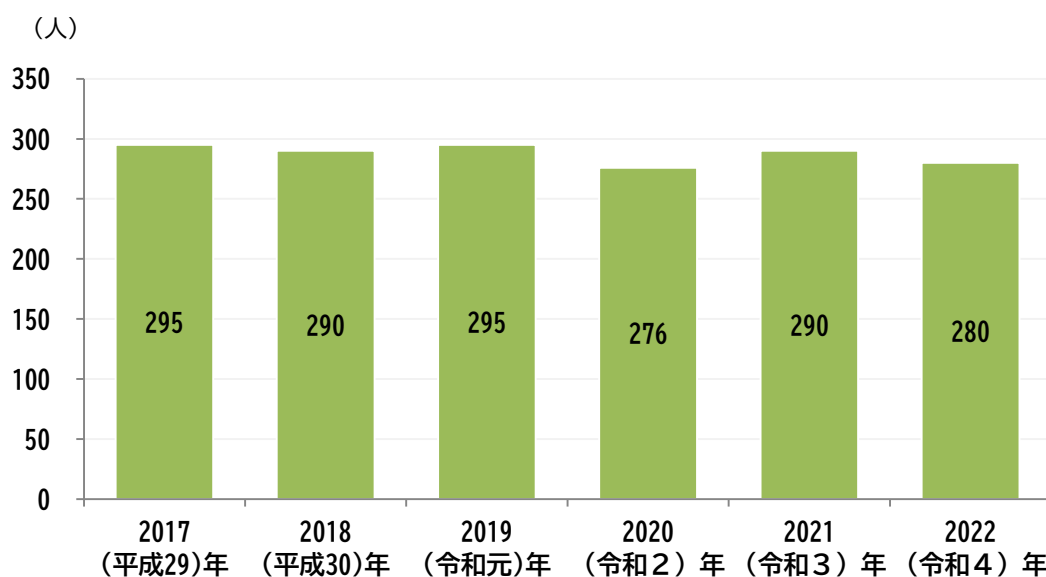
##### ■障害者手帳所持者数の推移



出典：龍郷町保健福祉課（各年4月1日現在）

#### (5) 保育・教育の状況

##### ■保育所園児数の推移（町内へき地保育所を含む）

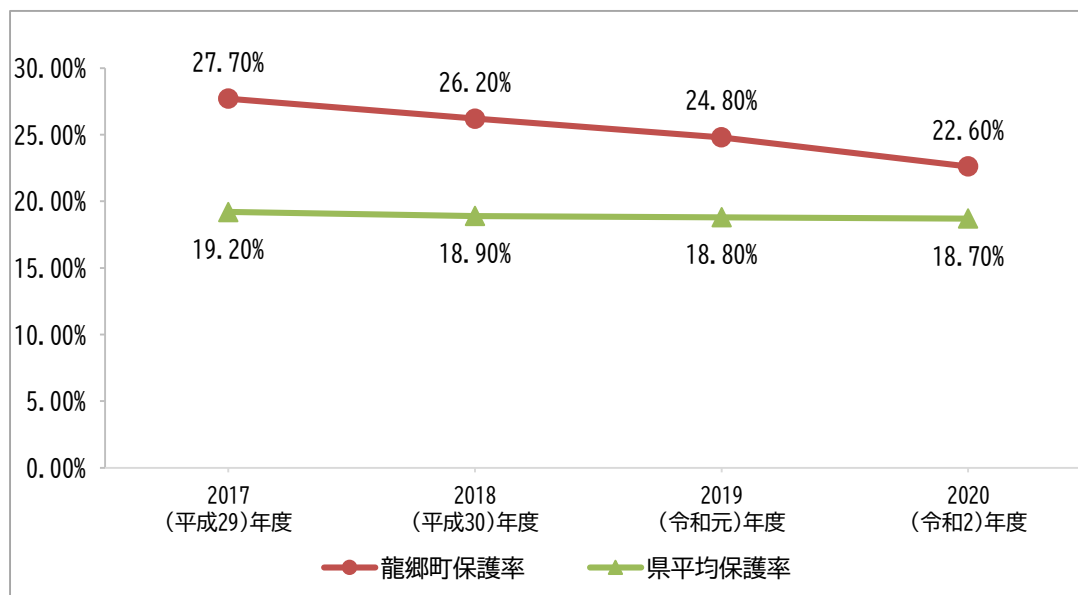


出典：龍郷町子ども子育て応援課（各年5月1日現在）

## (6) 生活困窮者の状況

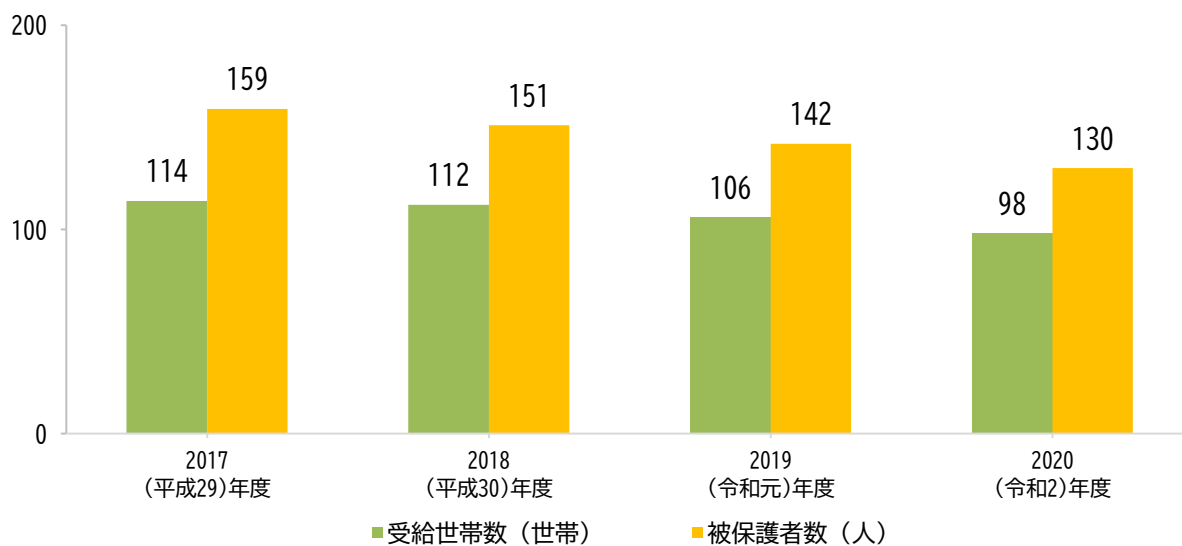
### ① 生活保護等の状況

#### ■保護率の推移



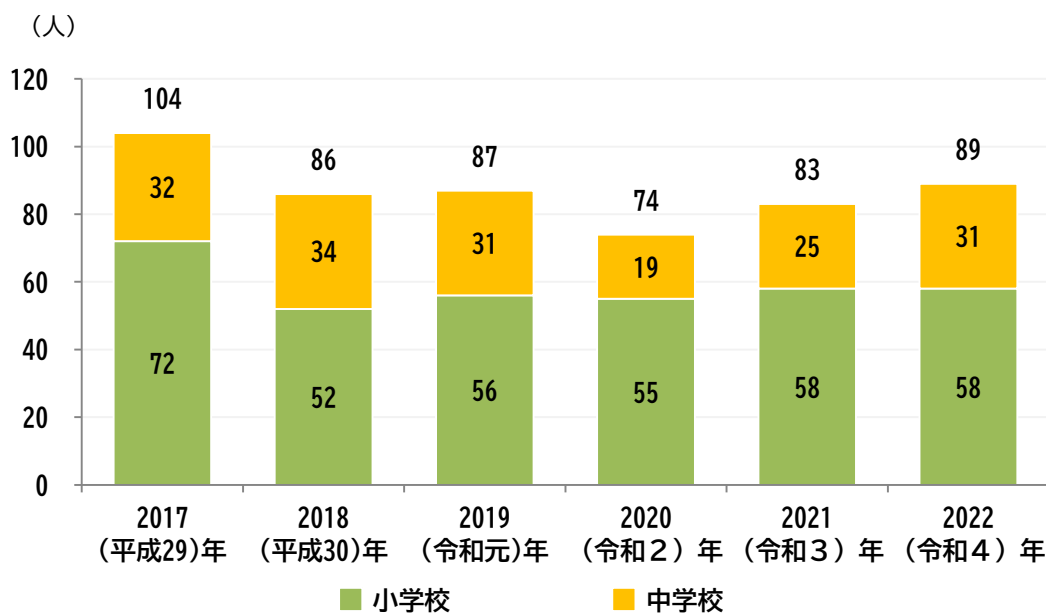
出典：龍郷町保健福祉課（各年4月1日現在）

#### ■生活保護受給世帯と被保護者数の推移



出典：龍郷町保健福祉課（各年4月1日現在）

■小・中学校就学援助認定状況の推移

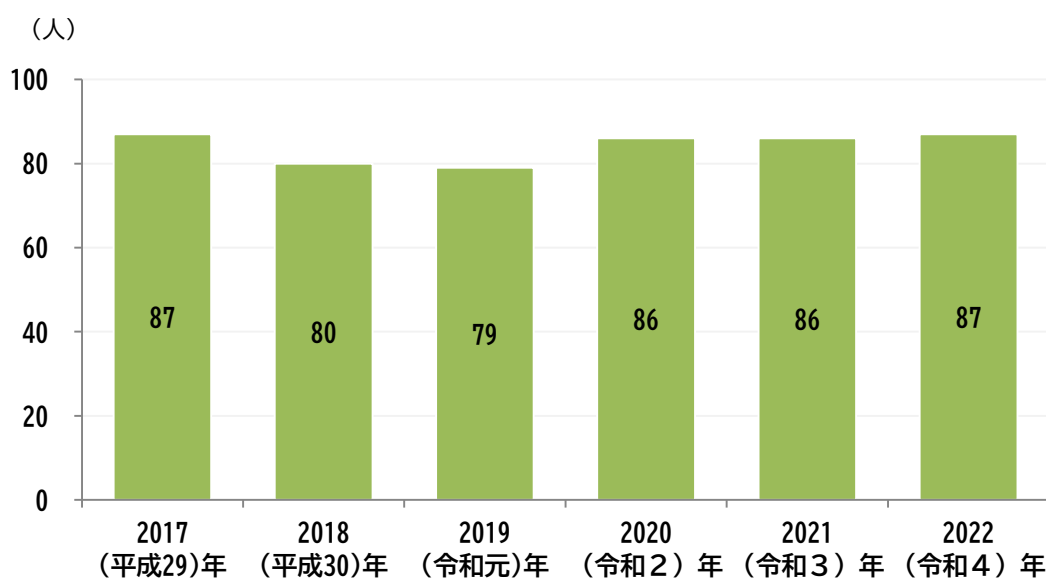


出典：龍郷町教育委員会（各年3月31日現在）

一人親家庭等の児童のための「児童扶養手当」の受給者は令和4年で87人と近年は横ばいとなっています。

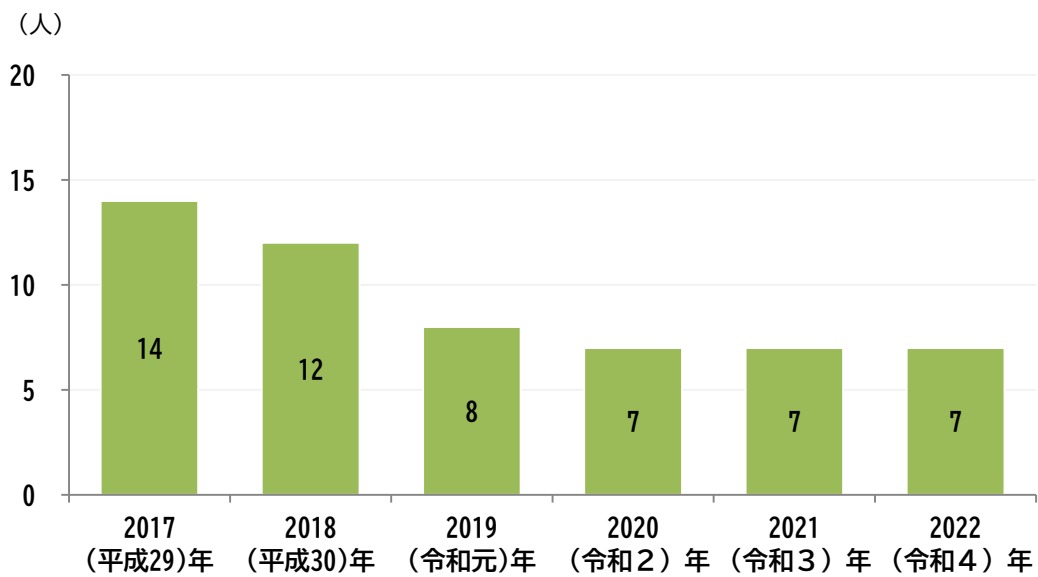
また、身体または精神に障がいをもつ20歳未満の児童の保護者に対して支給される「特別児童扶養手当」の受給者は近年、7人前後で推移しています。

■児童扶養手当受給者数の推移



出典：龍郷町子ども子育て応援課（各年3月31日現在）

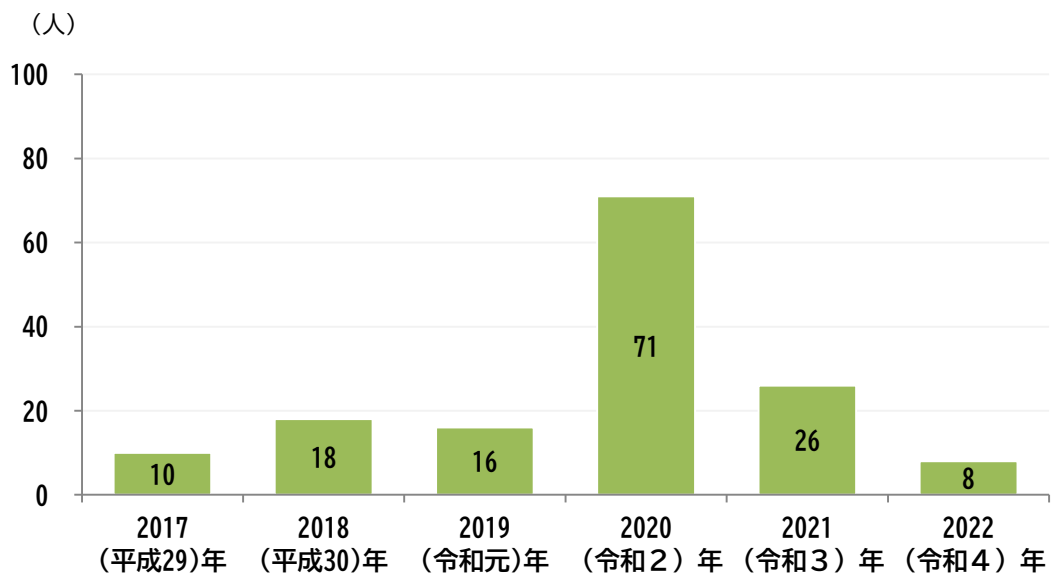
## ■特別児童扶養手当受給者数の推移



出典：龍郷町子ども子育て応援課（各年3月31日現在）

## ② 生活困窮者自立相談件数の状況

### ■生活困窮者自立支援における相談件数の状況



出典：龍郷町社会福祉協議会（各年3月31日現在）

## (7) 成年後見制度利用状況

令和4年の成年後見制度利用者数は、8件となっています。

また、本町における成年後見制度の町長申立て件数は、令和元年度に1件、令和3年度に1件となっています。

### ■成年後見制度利用者数

法定後見 新規申立件数				任意後見	
法定後見合計	うち後見	うち保佐	うち補助		
8件	8件	0件	0件	0件	
法定後見のうち後見人等種別					
	親族	弁護士	司法書士	社会福祉士	法人
後見	3人	1人	2人	0人	2団体
保佐	0人	0人	0人	0人	0団体
補助	0人	0人	0人	0人	0団体

出典：龍郷町保健福祉課（令和4年10月1日現在）

### ■成年後見制度等申立件数

	令和2年度	令和3年度
申立件数	0件	2件
内後見等開始件数	0件	2件

### ■成年後見制度の町長申立て件数

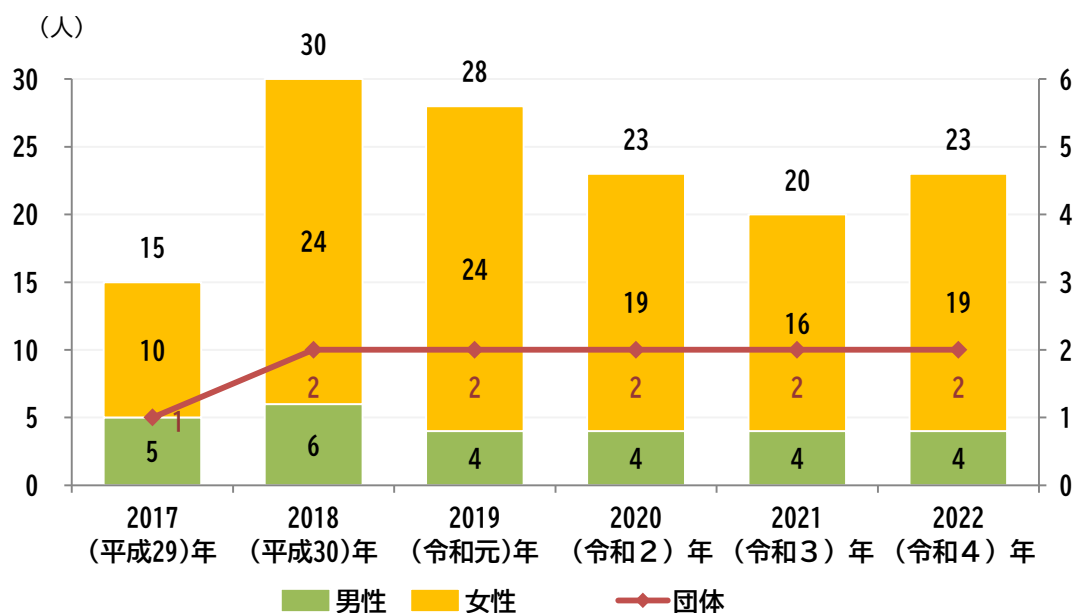
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
障がい者(件数)	0件	1件	0件	0件	0件
高齢者(件数)	0件	0件	0件	1件	0件

## (8) 地域を支える社会資源の状況

本町には、福祉サービス、地域活動等、地域福祉を推進する上で重要な役割を担う人材が豊富であり、多様化する地域課題の解決に向けた活用等が期待されます。しかし、メンバーの高齢化や多様化するニーズへの対応等で、より多くの人材確保が課題となっています。

社会資源	人数・団体数
民生委員・児童委員	20人
主任児童委員	2人
世話焼きさん	300人
子ども育成会	16団体
どうくさ会	15団体
楽しく体操	6団体
ボランティア団体	29団体
防災士	7人

### ■ ボランティアセンター登録者数の推移



出典：龍郷町社会福祉協議会（各年9月1日現在）

## 2. アンケート調査の結果

### (1) 住民アンケート調査

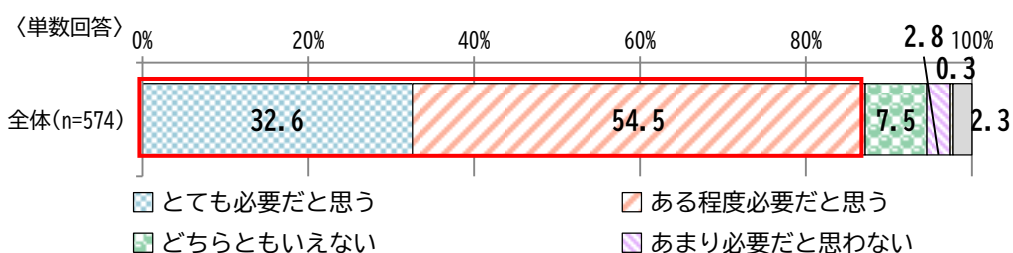
#### ① 調査の概要

目的	日常生活や地域福祉に関する考えを伺い、今後の地域福祉行政に反映するための基礎資料とすることを目的として実施
調査時期	令和3年12月
調査対象者	町内在住の18歳以上の方より無作為抽出
調査方法	①民生委員配布・郵送回収 ②民生委員配布・回収
配布数	900件
有効回収数・有効回答率	① 447件 (49.7%) ② 127件 (14.1%) 合計 574件 (63.8%)

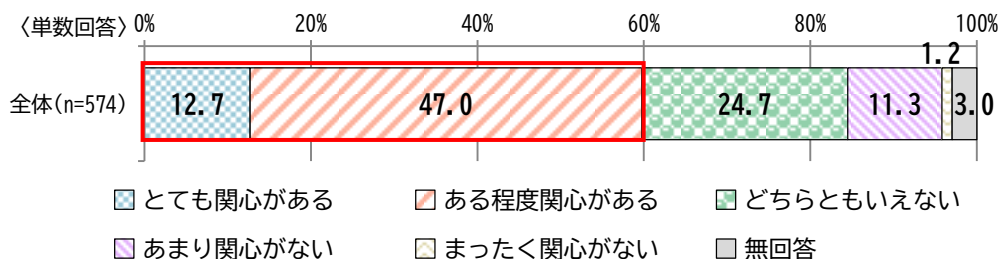
#### ② 調査結果の概要

##### ア. 地域福祉に関する意識について

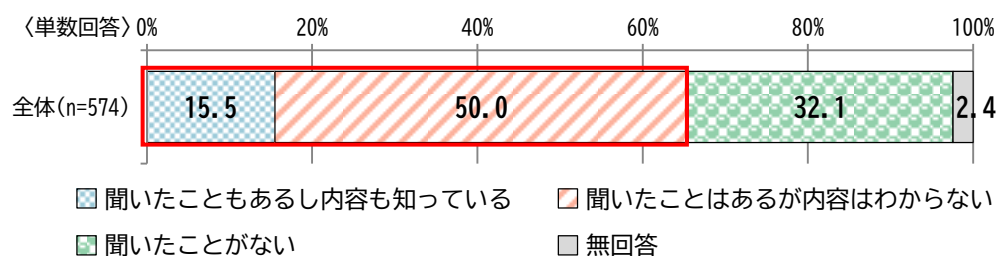
◆地域福祉に関する課題に対し住民同士の助け合いや支えあいが必要だと思う人の割合（「とても必要だと思う」と「ある程度必要だと思う」の合計）は87.1%となっています。



◆福祉に関心がある人の割合は59.7%となっています。



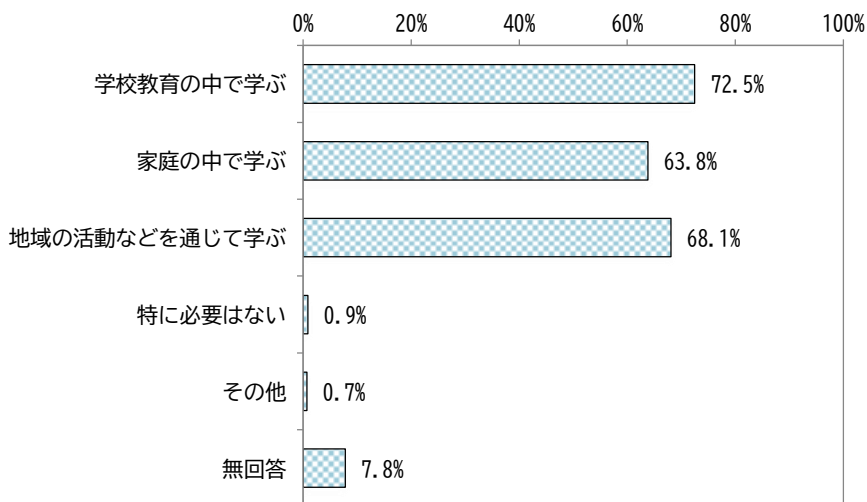
◆「地域福祉」という言葉を知っている人の割合は65.5%となっています。



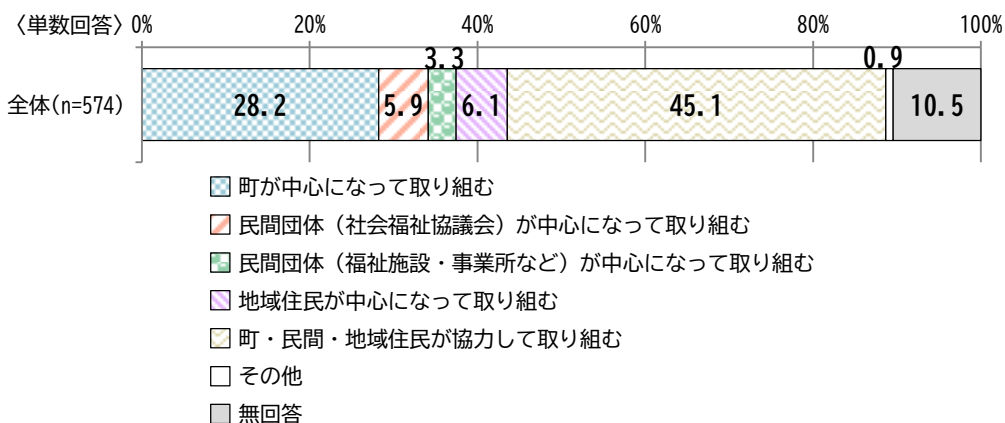


◆子どもたちに対する福祉教育については、「学校教育」「家庭」「地域」の割合が6割を超え、あらゆる機会で行うべきと考える人が多くなっています。

〈複数回答〉 n=574



◆今後、地域福祉を推進していくために町と民間団体と住民の関係で必要なこととしては、「住民間・地域住民が協力して取り組む」(45.1%)と「町が中心になって取り組む」(28.2%)の割合が高くなっています。

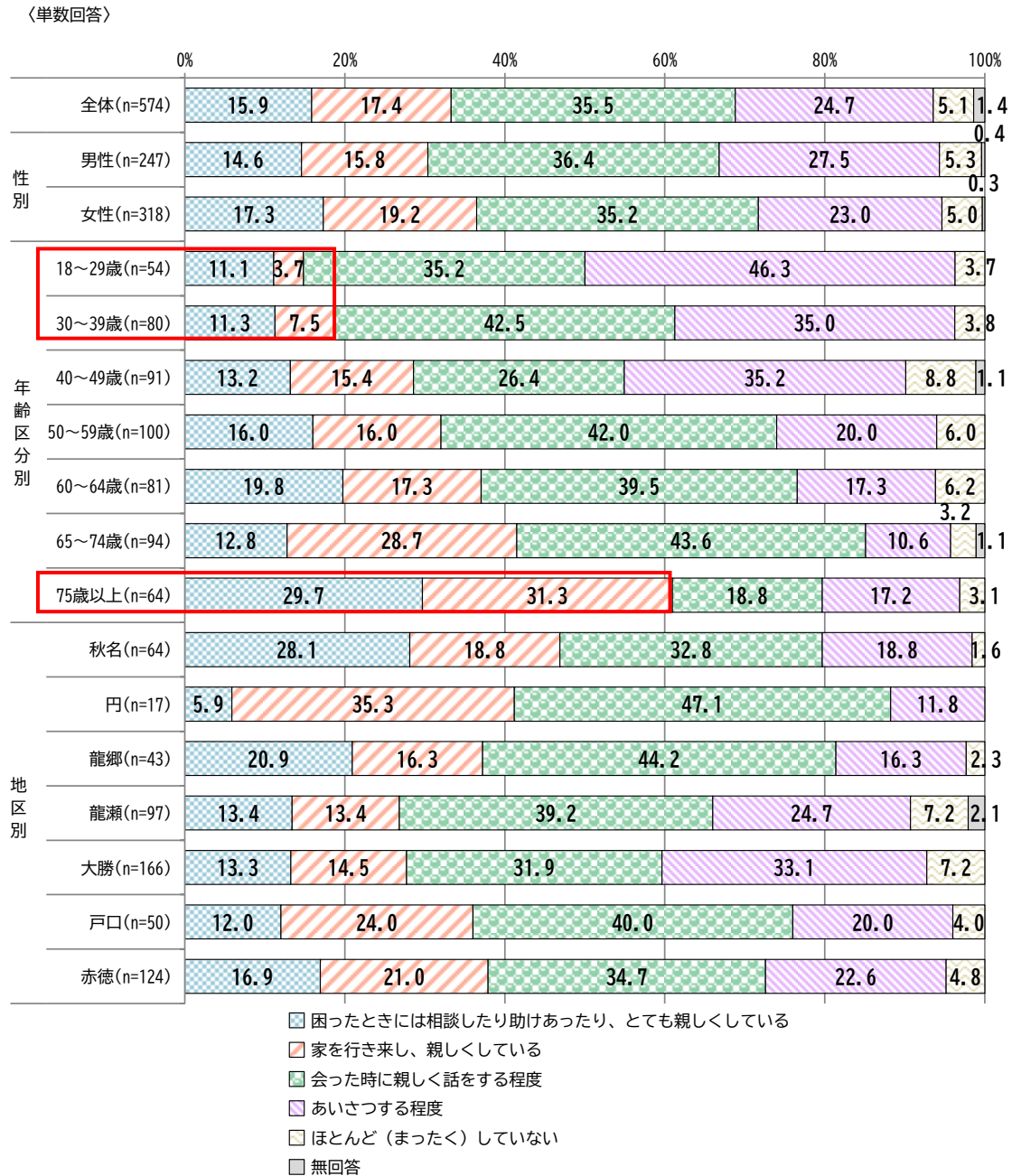


#### 調査結果にみる現状・課題

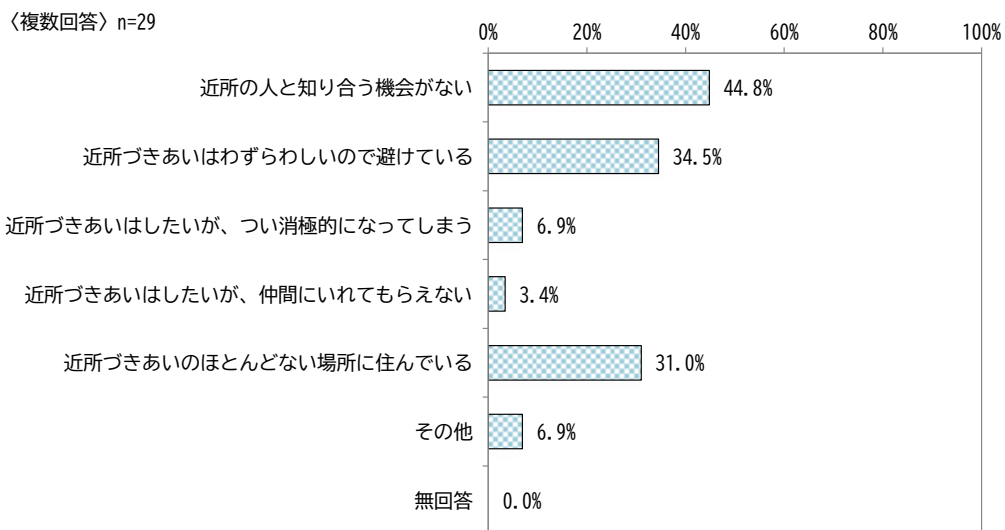
- 地域福祉の意識は、ある程度高くなっていることから、さらに意識を高め行動につなげていくための啓発や地域で集う場づくりなどが必要となっています。
- 子どもの成長過程に応じた福祉教育の充実が求められています。
- 協働の意識を高め、推進していくための仕組みづくりや協働の様々な主体との相互理解を深めることができる場が必要となります。

## イ. 地域の交流について

- ◆近所の人とのつきあいについては、「会った時に親しく話をする程度」が 35.5%と最も高く、次いで、「あいさつする程度」の 24.7%、「家を行き来し、親しくしている」の 17.4%のとなっています。
- ◆『親しくしている』（「困ったときには相談したり助けあったり、とても親しくしている」と「家を行き来し、親しくしている」の合計）と回答した割合は、年齢が高くなるにつれ高くなっており、75歳以上では6割を超えています。

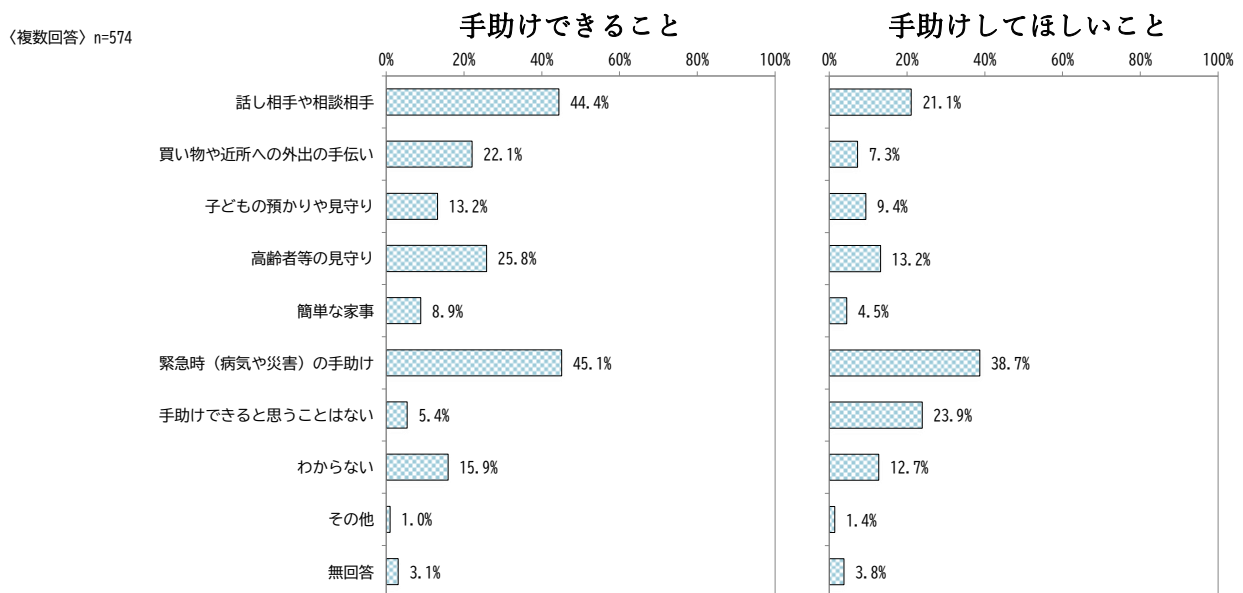


◆あまり近所づきあいをされていない理由については、「近所の人と知り合う機会がない」が44.8%と最も高くなっています。



◆近所づきあいの中で今後、「手助けできる」と思うことについては、「緊急時（病気や災害）の手助け」が45.1%と最も高く、次いで、「話し相手や相談相手」の44.4%、「高齢者等の見守り」の25.8%の順となっています。

◆近所づきあいの中で今後、「手助けしてほしい」と思うことについては、「緊急時（病気や災害）の手助け」が38.7%と最も高く、次いで、「手助けできると思うことはない」の23.9%、「話し相手や相談相手」の21.1%の順となっています。



### 調査結果にみる現状・課題

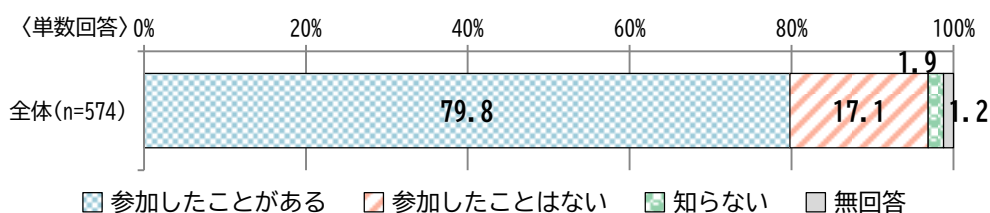
- 親しい近所付き合いをしている若い世代の割合が低くなっていることから、地域福祉の必要性や関心が高まるような意識啓発や機会づくりが必要となっています。
- 近所づきあいの中で今後「手助けできること」と「手助けしてほしいこと」の上位回答の内容がほぼ同じとなっていることから、これらをつなぎ合わせる（マッチング）仕組みづくりが必要となっています。

## ウ. 地域活動やボランティアへの参加について

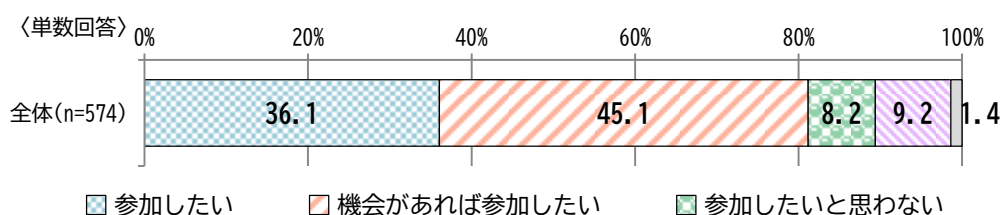
◆町の行事や地域の活動等への参加経験については、「参加したことがある」が 79.8%、「参加したことはない」が 17.1%、「知らない」が 1.9%となっています。

◆参加したことがある行事や活動については、「地域の主催する行事や活動」が 86.0%と最も高く、次いで、「町の主催する行事や活動」の 65.1%、「学校・保育所主催する行事や活動」の 49.8%の順となっています。また、「社会福祉協議会主催する行事や活動」は 10.0%となっています。

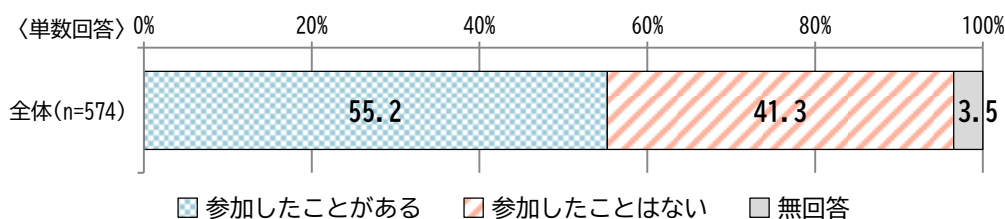
◆参加経験がない理由については、「時間が合わない、時間的な余裕がない」が 43.1%と最も高く、次いで、「人づきあいが苦手」「特に関心がない」の 22.0%、「どのような行事や地域活動があるかわからない」の 17.4%の順となっています。



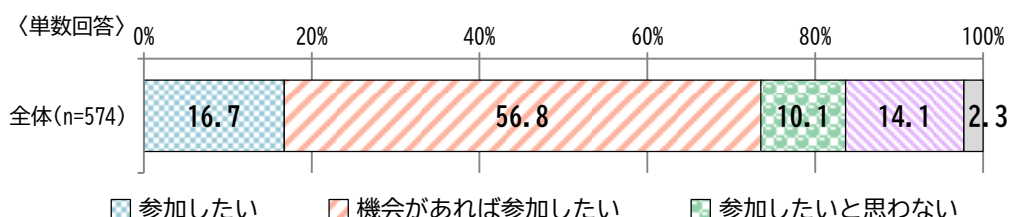
◆町の行事や地域活動への今後の参加意向については、「参加したい」が 36.1%、「機会があれば参加したい」が 45.1%、「参加したいと思わない」が 8.2%、「わからない」が 9.2%となっています。



◆ボランティア活動の参加経験については、「参加したことがある」が 55.2%、「参加したことはない」が 41.3%となっています。



◆ボランティア活動の今後の参加意向については、「参加したい」が 16.7%、「機会があれば参加したい」が 56.8%、「参加したいと思わない」が 10.1%、「わからない」が 14.1%となっています。



- ◆参加意向がない人の参加の条件については、「自分にあった時間や内容の活動があれば参加してみたい」が 39.6%と最も高く、次いで、「どのような条件が整っても参加してみたいとは思わない」が 20.9%、「友人や家族と一緒に活動できるのであれば参加してみたい」が 12.9%と高くなっています。

調査結果にみる現状・課題	
○町の行事や地域の活動等への参加をしたことがある人の割合は高く、今後については「機会があれば参加したい」とする割合も高くなっていることから、参加につなげていくため、日時や気軽に参加できる内容にするなど工夫が必要となっています。	
○潜在的なボランティア活動への参加意向を引き出すために、ボランティアに関する情報の紹介、研修機会、相談窓口などの充実が求められています。	

## エ. 情報や相談について

- ◆現在感じている悩みや不安については、「健康状態について」が 36.2%と最も高く、次いで、「老後について」の 27.7%、「特に困っていること・不安に思うことはない」の 23.5%の順となっています。
- ◆年齢区分別でみると、18～29 歳の「特に困っていること・不安に思うことはない」の割合が 3 割を超えている一方、「就職・仕事について」「経済的な問題（借金や生活費）について」の割合も 2 割を越えています。

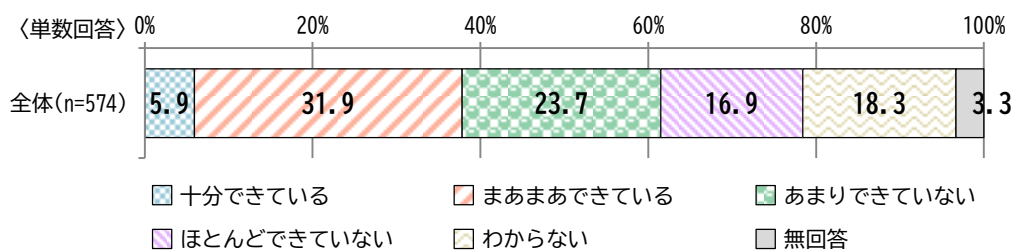
		1 位	2 位	3 位
全体 (n=574)		健康状態について 36.2%	老後について 27.7%	経済的な問題（借金や生活費）について 19.3%
年齢区分別	18～29歳 (n=54)	特に困っていること・不安に思うことはない 35.2%	就職・仕事について 24.1%	経済的な問題（借金や生活費）について 22.2%
	30～39歳 (n=80)	特に困っていること・不安に思うことはない 31.3%	健康状態について 23.8%（同率2位）	経済的な問題（借金や生活費）について 23.8%（同率2位）
	40～49歳 (n=91)	親の介護について 25.3%（同率1位）	特に困っていること・不安に思うことはない 25.3%（同率1位）	経済的な問題（借金や生活費）について 24.2%
	50～59歳 (n=100)	老後について 35.0%	健康状態について 33.0%（同率2位）	親の介護について 33.0%（同率2位）
	60～64歳 (n=81)	老後について 46.9%	健康状態について 43.2%	経済的な問題（借金や生活費）について 19.8%
	65～74歳 (n=94)	健康状態について 59.6%	老後について 45.7%	特に困っていること・不安に思うことはない 19.1%
	75歳以上 (n=64)	健康状態について 59.4%	老後について 31.3%	特に困っていること・不安に思うことはない 17.2%

◆悩みや不安の相談先については、「家族・親せき」が 76.1%と最も高く、次いで、「友人・知人」の 59.2%、「職場の上司や同僚」の 14.3%の順となっています。

◆75 歳以上の相談相手として「民生委員・児童委員」が 17.2%となっており、他の年代よりも高くなっています。

		1位	2位	3位
全 体 (n=574)		家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		76.1%	59.2%	14.3%
年 齢 区 分 別	18～29歳 (n=54)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		72.2%	70.4%	22.2%
	30～39歳 (n=80)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		78.8%	73.8%	31.3%
	40～49歳 (n=91)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		79.1%	54.9%	22.0%
	50～59歳 (n=100)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		73.0%	66.0%	16.0%
	60～64歳 (n=81)	家族・親せき	友人・知人	職場の上司や同僚
		67.9%	55.6%	8.6%
	65～74歳 (n=94)	家族・親せき	友人・知人	医療機関(医師・看護師等)や薬局
		83.0%	58.5%	14.9%
	75歳以上 (n=64)	家族・親せき	友人・知人	民生委員・児童委員
		84.4%	32.8%	17.2%

◆必要な福祉サービスの情報の入手状況については、「十分できている」が 5.9%、「まあまあできている」31.9%、「あまりできていない」が 23.7%、「ほとんどできていない」が 16.9%、「わからない」が 18.3%となっています。

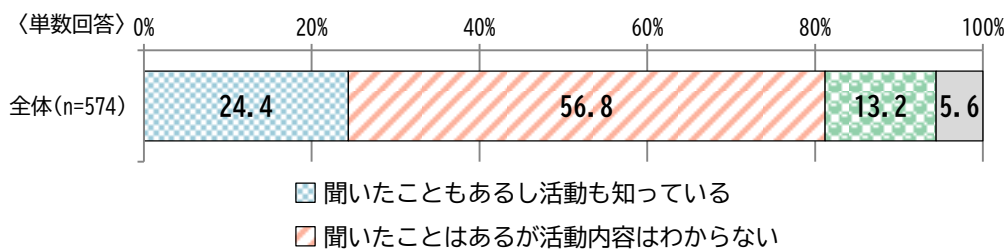


- ◆効果的な情報提供の手段については、「広報・機関紙（社協だより等）」が 67.8%と最も高く、次いで、「インターネット」の 32.1%、「回覧板・掲示板」の 23.5%の順となっています。また、年齢区分別でみると、18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳では 5 割以上が「インターネット」と回答しています。

調査結果にみる現状・課題	
○	世代によって抱えている悩みや不安は多様となっていることから、個々のニーズにあった包括的な相談体制の整備が必要となっています。
○	悩みや不安の相談相手として公的機関の割合が低くなっていることから、相談機関の周知と安心して相談できる体制づくりが必要となっています。
○	民生委員・児童委員が高齢者の相談相手としての役割を担っている様子が伺えます。
○	福祉に関する情報が入手できている人は 4 割に満たっていないことから、必要な人に必要な情報が行き届くよう、年代や地域性に配慮した情報の発信が求められています。

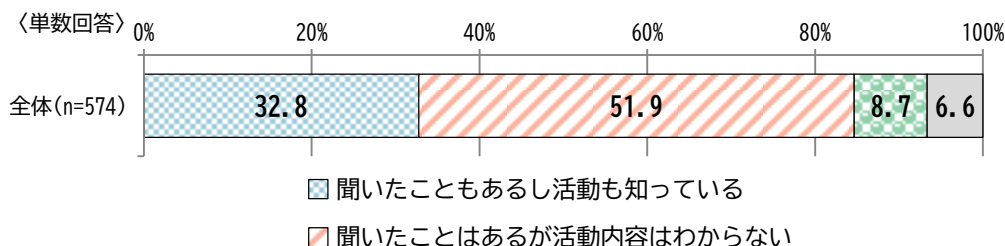
### オ. 福祉の担い手について

- ◆社会福祉協議会の活動については、「聞いたこともあるし活動も知っている」が 24.4%、「聞いたことはあるが活動内容はわからない」が 56.8%、「聞いたことがない」が 13.2%となっています。



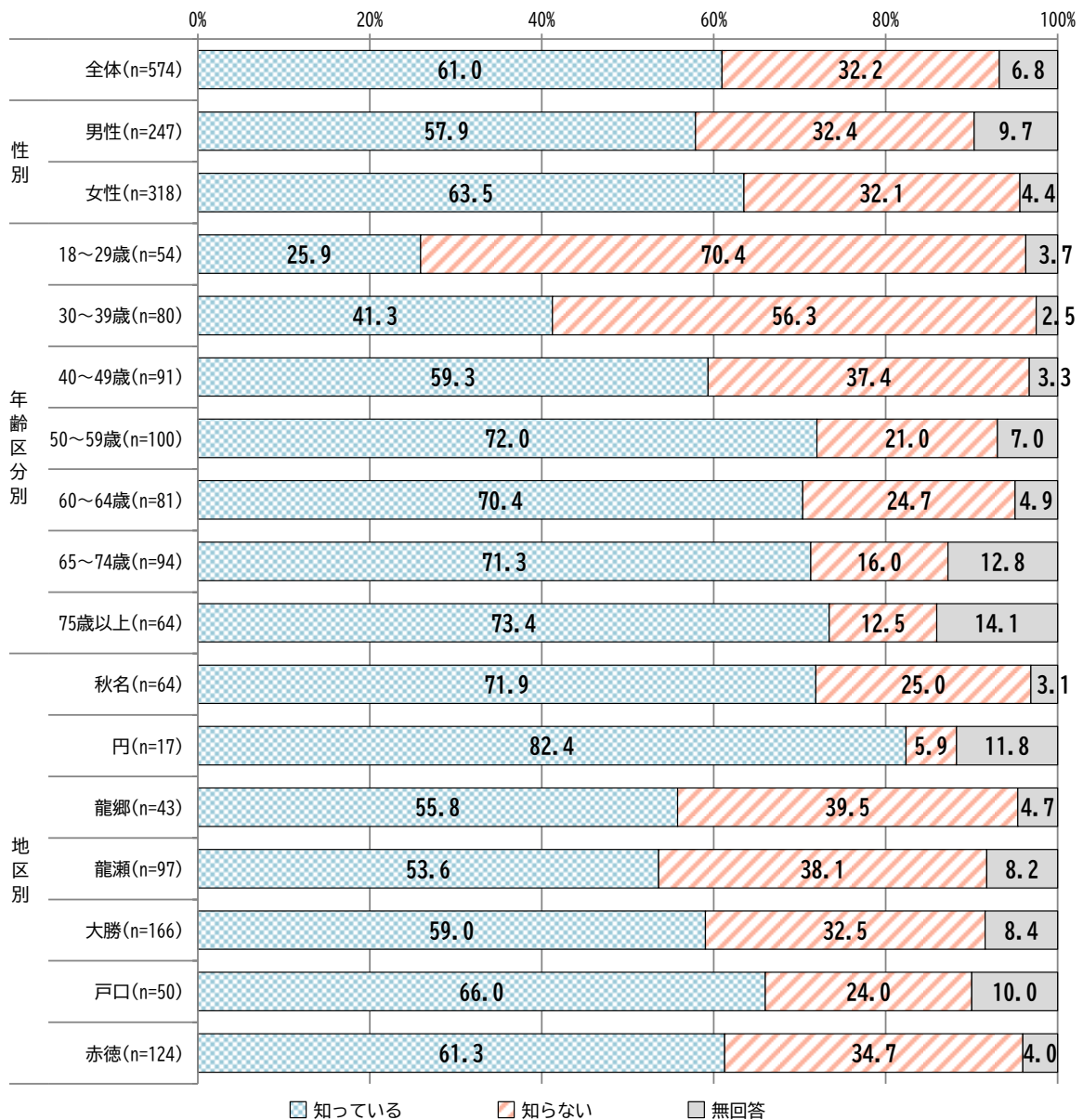
- ◆今後、龍郷町社会福祉協議会が力を入れるべき福祉活動については、「高齢者への福祉サービス」が 55.4%と最も高く、次いで、「障がい者・児への福祉サービス」が 39.2%、「災害時の対応」が 33.6%と割合が高くなっています。

- ◆民生委員・児童委員が行う活動については、「聞いたこともあるし活動も知っている」が 32.8%、「聞いたことはあるが活動内容はわからない」が 51.9%、「聞いたことがない」が 8.7%となっています。



◆住まいの地区の担当民生委員・児童委員の認知度については、「知っている」が 61.0%、「知らない」が 32.2%となっています。これを年齢区分別でみると、18～29 歳の 7 割以上が「知らない」と回答しています。

〈単数回答〉



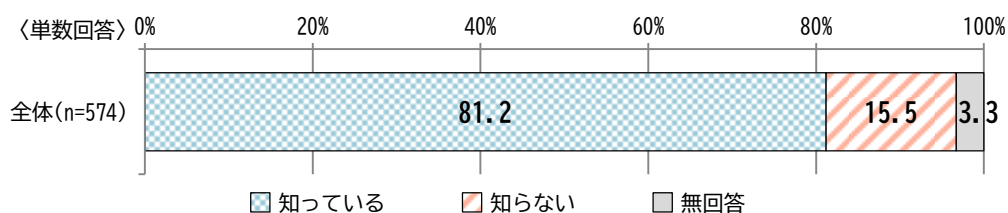
調査結果にみる現状・課題

○地域福祉の中心的な担い手と期待されている社会福祉協議会や民生委員・児童委員の活動内容の認知度が低くなっていることから、活動内容の周知を図り理解を深めていくことで地域の各主体との協力・連携が推進される体制づくりが必要となっています。

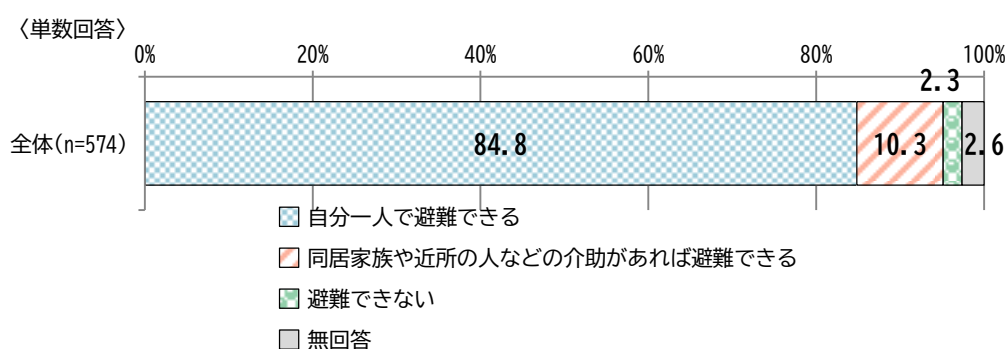


## カ. 安全・安心な暮らしについて

- ◆災害時の避難場所の認知については、「知っている」が 81.2%、「知らない」が 15.5%となっています。また、年齢区分別でみると、18～29 歳の「知らない」の割合が 27.8%と他の年代より高くなっています。



- ◆災害時の避難については、「自分一人で避難できる」が 84.8%、「同居家族や近所の人などの介助があれば避難できる」が 10.3%、「避難できない」が 2.3%となっています。また、避難できない理由としては、身体の不自由が多くなっています。



- ◆日頃からしている災害への備えについては、「家族との連絡方法の確認」が 34.8%と最も高く、次いで「特に何もしていない」の 27.2%、「水・食料等の備蓄」の 24.0%の順となっています。

調査結果にみる現状・課題
○一人では避難できない方（要援護者）が存在することから、地域・行政・社会福祉事業所（福祉サービス事業所）などが協力して取り組んでいくことが必要となります。
○地域・近所での協力体制づくりや災害時の情報伝達方法の確立などが必要となっています。
○避難場所を知らない人や、日頃からの災害の備えは特に何もしていない人が、それぞれ3割近くいることから、災害を自分ごととして考えられるよう意識向上が求められています。

## キ. 今後の福祉施策について

- ◆住んでいる地域で感じている課題や問題については、「一人暮らしの高齢者の暮らし」が24.4%と最も高く、次いで、「地元で雇用の場がない」の21.6%、「買物の不便さ」の21.4%の順となっています。

		1位	2位	3位
全体 (n=574)		一人暮らしの高齢者の暮らし 24.4%	地元で雇用の場がない 21.6%	買物の不便さ 21.4%
地区別	秋名 (n=64)	地元で雇用の場がない 32.8% (同率1位)	買物の不便さ 32.8% (同率1位)	一人暮らしの高齢者の暮らし 29.7%
		一人暮らしの高齢者の暮らし 52.9% (同率1位)	地元で雇用の場がない 52.9% (同率1位)	買物の不便さ 35.3%
	円 (n=17)	一人暮らしの高齢者の暮らし 52.9% (同率1位)	地元で雇用の場がない 52.9% (同率1位)	買物の不便さ 35.3%
		買物の不便さ 30.2%	地元で雇用の場がない 27.9%	一人暮らしの高齢者の暮らし 25.6%
	龍郷 (n=43)	一人暮らしの高齢者の暮らし 21.6%	特になし 19.6%	地域でのまとまり・助け合い 17.5%
		一人暮らしの高齢者の暮らし 21.6%	特になし 19.6%	地域でのまとまり・助け合い 17.5%
	龍瀬 (n=97)	一人暮らしの高齢者の暮らし 21.6%	特になし 19.6%	地域でのまとまり・助け合い 17.5%
		一人暮らしの高齢者の暮らし 21.6%	特になし 19.6%	地域でのまとまり・助け合い 17.5%
	大勝 (n=166)	一人暮らしの高齢者の暮らし 24.0% (同率1位)	買物の不便さ 24.0% (同率1位)	地場産業（農業・商業等）の衰退 22.0%
		一人暮らしの高齢者の暮らし 24.0% (同率1位)	買物の不便さ 24.0% (同率1位)	地場産業（農業・商業等）の衰退 22.0%
	戸口 (n=50)	一人暮らしの高齢者の暮らし 24.0% (同率1位)	買物の不便さ 24.0% (同率1位)	地場産業（農業・商業等）の衰退 22.0%
		一人暮らしの高齢者の暮らし 24.0% (同率1位)	買物の不便さ 24.0% (同率1位)	地場産業（農業・商業等）の衰退 22.0%
	赤穂 (n=124)	買物の不便さ 31.5%	交通環境の整備 24.2%	一人暮らしの高齢者の暮らし 21.8%
		買物の不便さ 31.5%	交通環境の整備 24.2%	一人暮らしの高齢者の暮らし 21.8%

- ◆今後、福祉の推進を図る上で、町が特に力を入れるべき施策については、「福祉サービスの充実」が42.0%と最も高く、次いで、「福祉に関する人材の育成」「福祉に関する情報提供・案内の充実」の34.1%の順となっています。

調査結果にみる現状・課題
○少子高齢化が進み、地域生活の維持や地域での見守りなどが難しくなることへの課題が多くなっています。
○地域ごとに感じている課題が違うことから、その地域のニーズにあった、きめ細かい施策の推進が求められています。

## (2) 関係団体等アンケート調査

### ① 調査の概要

#### ア. 関係団体調査

調査時期	令和4年1月
調査対象者	龍郷町内の関係団体、ボランティアグループ
調査方法	郵送配布または直接配布・郵送回収
配布数	9件
有効回収数・有効回答率	合計 6件 (66.7%)

#### イ. 民生委員・児童委員調査

調査時期	令和4年1月
調査対象者	龍郷町内の民生委員・児童委員
調査方法	直接配布・郵送回収
配布数	22件
有効回収数・有効回答率	合計 18件 (81.8%)

#### ウ. 保護司調査

調査時期	令和4年1月
調査対象者	龍郷町内の保護司
調査方法	直接配布・郵送回収
配布数	7件
有効回収数・有効回答率	合計 5件 (71.4%)

#### エ. 専門職調査

調査時期	令和4年1月
調査対象者	龍郷町内の医療福祉機関に勤務する専門職
調査方法	郵送配布・郵送回収
配布数	51件
有効回収数・有効回答率	合計 31件 (60.8%)

#### オ. 教育・保育調査

調査時期	令和4年1月
調査対象者	龍郷町内の保育・教育施設
調査方法	郵送配布・郵送回収
配布数	24件
有効回収数・有効回答率	合計 15件 (62.5%)

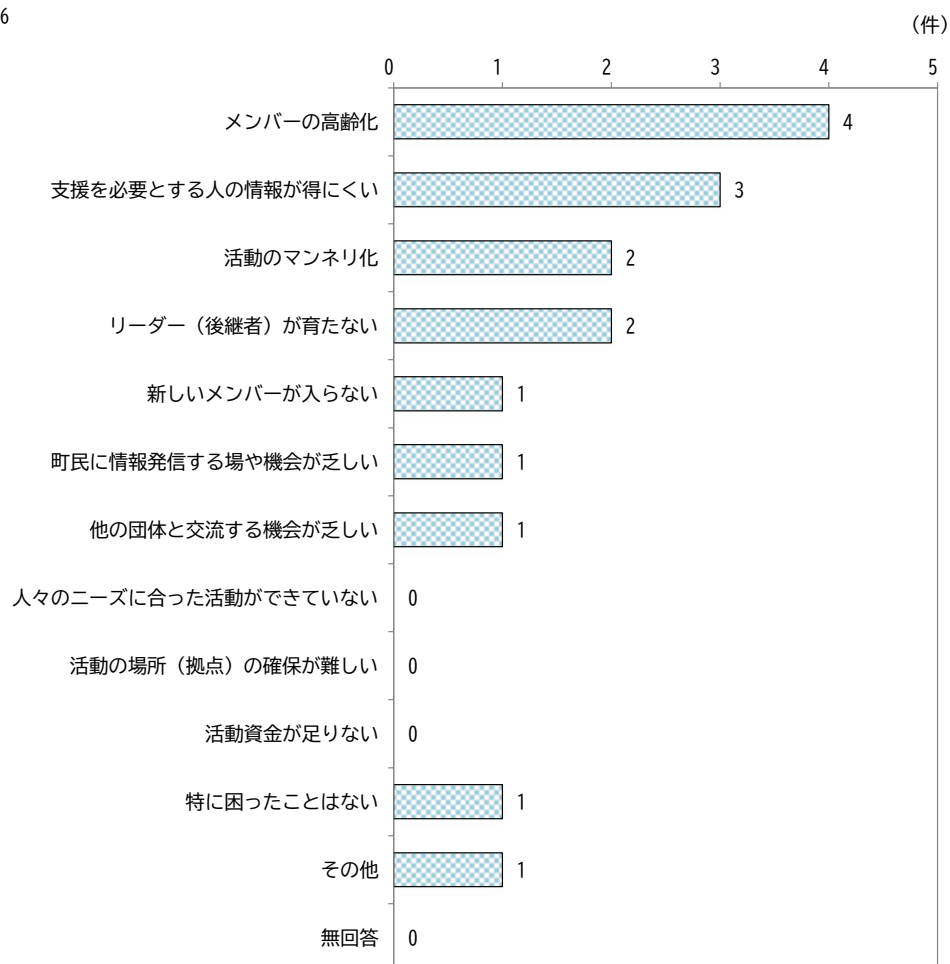
## ②調査結果の概要

### ア. 関係団体調査

#### ◆団体活動を行う上で困っていること

「メンバーの高齢化」が4件と最も高く、次いで、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が3件となっています。

〈複数回答〉n=6



◆最近、気になる問題や課題

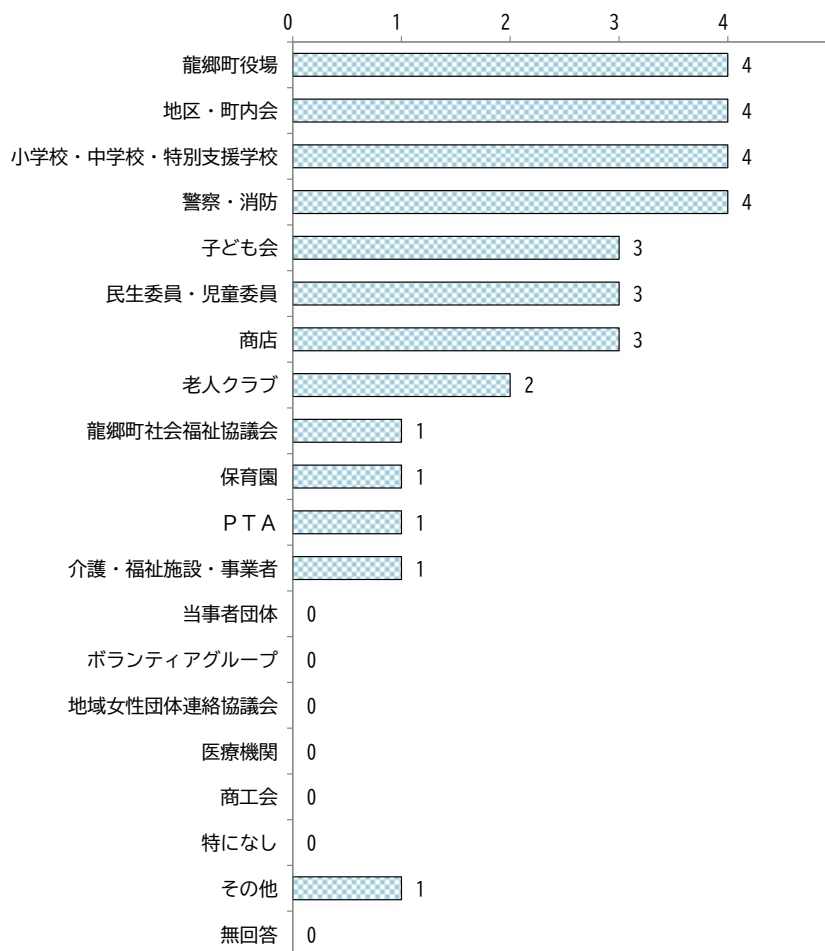
分野	内容
子どもや子育てに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒のスポーツ活動が多くなり、集落行事への参加が減り、子供達との交流が少なくなった気がする。又、地域の子供とふれあう機会が減り、見守り活動が難しい。</li> </ul>
障がいのある人やその家族に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者やその家族の悩みを「他人事」と思う傾向が未だにある。</li> </ul>
高齢者・介護の必要な人やその家族に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者に対する支援が必要だと思う。</li> <li>・地域性かやはり隠そうとする面があり情報が入らない。(個人情報についての意見もあり)</li> <li>・「自分たちもいつかは高齢者や介護を必要とする人になる」という意識が(低い人が)若者の中にはいる。</li> </ul>
生活に困難を抱える人に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルコール依存による困窮者、引きこもりが見うけられる。</li> </ul>
虐待問題に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待の多くは、「相手の存在を認めない」「生命の重さを考えない」「共通の話題がない」「話し合い不足」等が要因と考えられる。</li> </ul>
ゴミ・住環境に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別がなされていない。町が回収しないゴミを出してある。</li> <li>・ゴミの出し方や環境に対して意識が弱い。</li> </ul>
道路・公園・公共施設に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園、バス待合所がない。</li> <li>・子どもたちは公営住宅の広場で遊んでいる。</li> </ul>
健康や医療に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的であっても家に「引きこもる」人が多い。それがしだいに健康を阻害し、身体の機能を悪化させている。</li> </ul>
防災・防犯・交通安全に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客による交通事故等が増えている。</li> <li>・避難場所に適度の設備が出来ていない。</li> <li>・災害時の避難誘導が難しい。</li> <li>・避難が計画どおりにいかない。</li> <li>・世帯の人数が少なくなり孤独な人が多いと感じ、災害や犯罪の発生を心配している。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近「公務員卒業生」(教員、役場、議員等)の退職後の社会活動参加や老人クラブへの入会等が減少している傾向にある。</li> <li>・周囲との関わりをいやがる傾向が増えており、「ゆいの精神」が薄れていると感じる。</li> </ul>

◆地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係について

「龍郷町役場」「地区・町内会」「小学校・中学校・特別支援学校」「警察・消防」がともに4件と最も高くなっています。

〈複数回答〉n=6

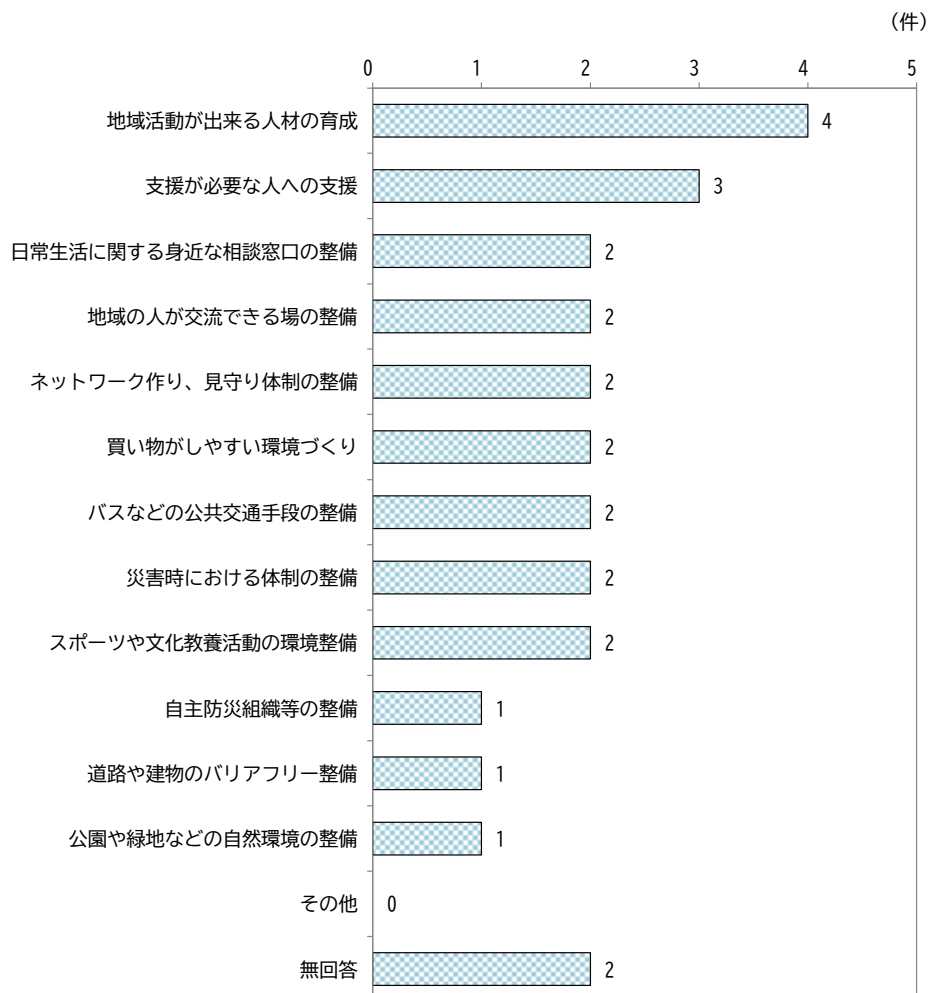
(件)



## ◆すべての住民が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域社会を、みんなで築いていくために必要なこと

「地域活動が出来る人材の育成」が4件と最も高く、次いで、「支援が必要な人への支援」が3件となっています。

〈複数回答〉n=6



## ◆地域での活動が活発になるために必要なこと

- ・現状維持をする為に会員の親睦を深めていきたい。※現在コロナ感染症拡大のため、全てが止まり地域活動が出来ない状況にあります。一日も早いコロナの終息を願っています。
- ・会員の意識向上
- ・会員の増強
- ・定期的な役員改選
- ・「出前授業」的な団体としての地域へ出向いての活動
- ・当団体の活動に対する住民の理解と協力
- ・安定的な予算の確保

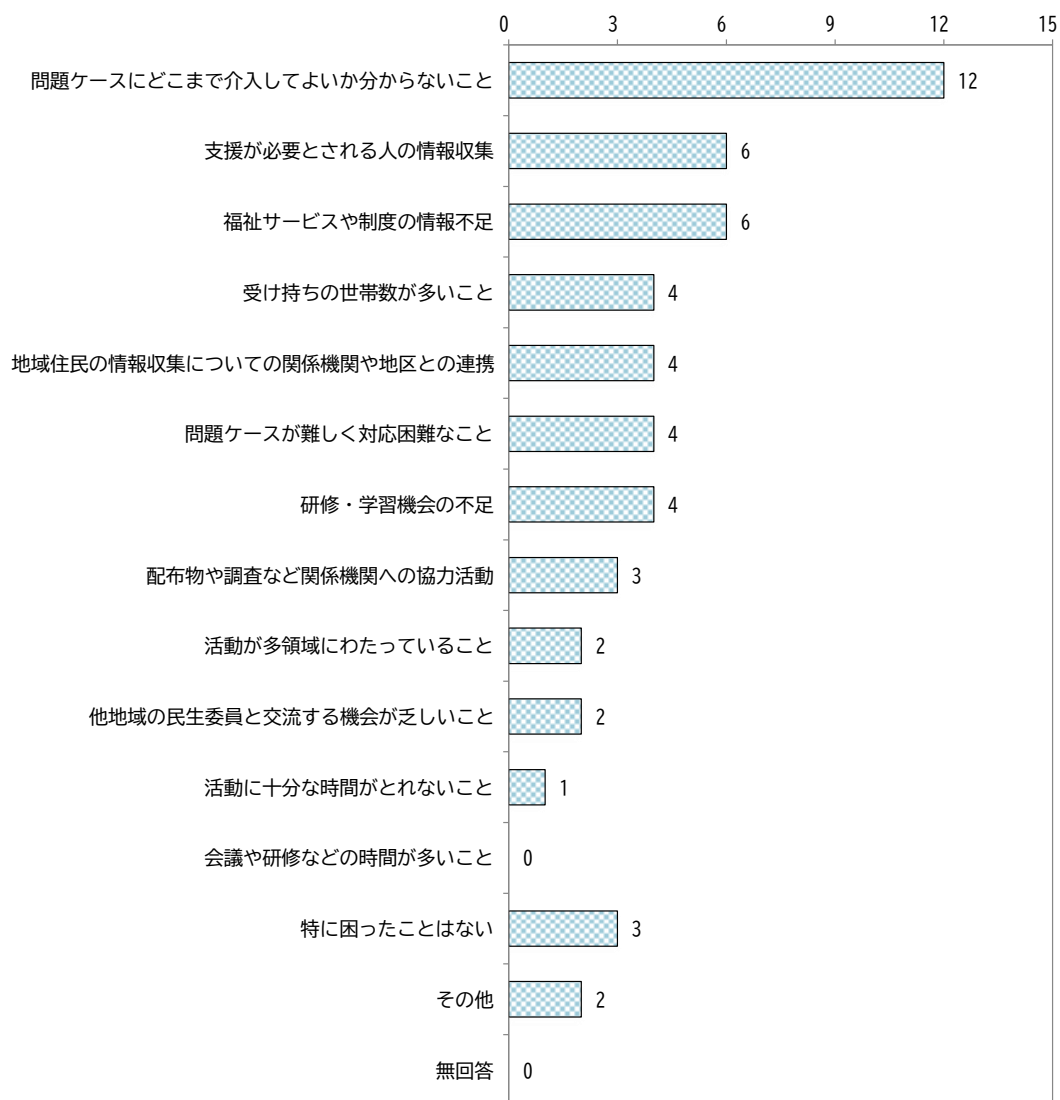
## イ. 民生委員・児童委員調査

### ◆活動を行う上で困っていること

「問題ケースにどこまで介入してよいか分からないこと」が 12 件と最も高く、次いで、「支援が必要とされる人の情報収集」「福祉サービスや制度の情報不足」がともに 6 件となっています。

〈複数回答〉 n=18

(件)





◆最近、気になる問題や課題

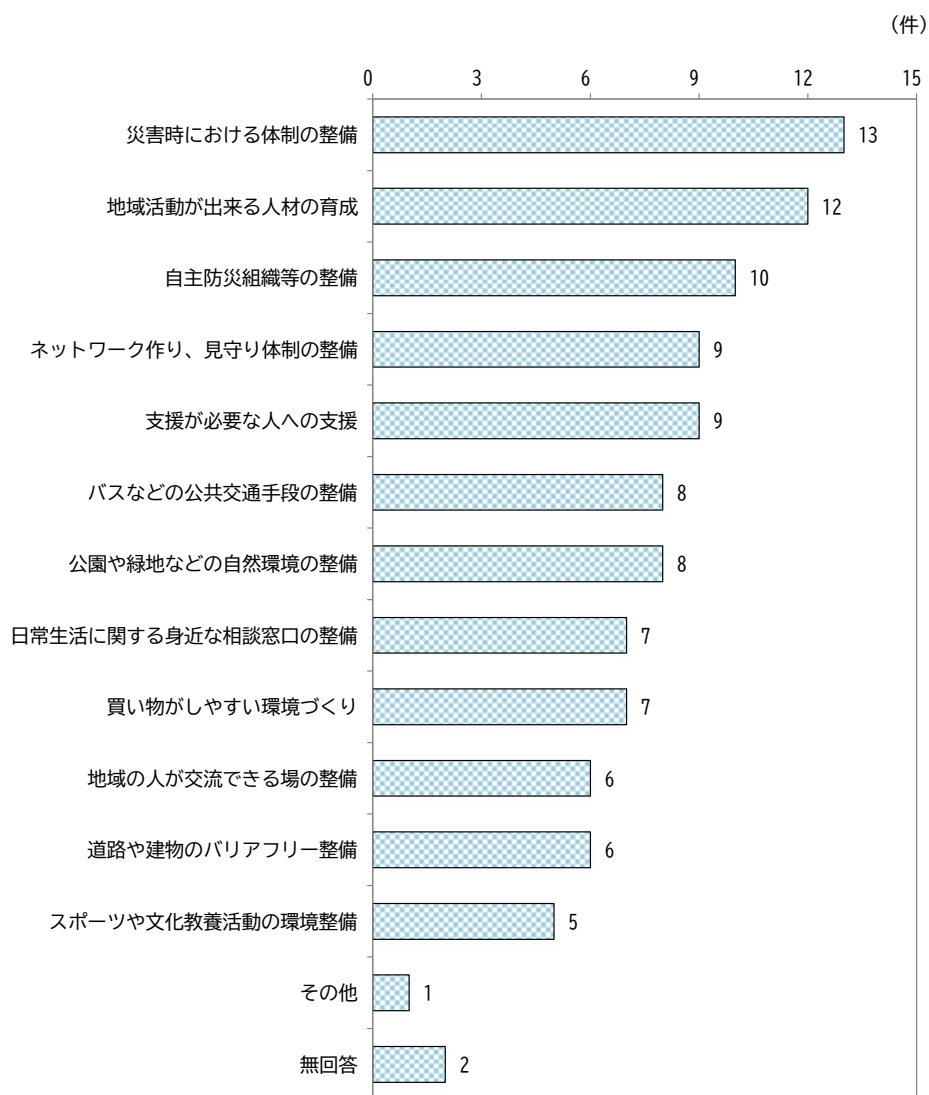
分野	内容
子どもや子育てに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新生児～幼児～学童迄の保育教育の各種相談事が気軽に出来る様に各機関（行政、託児所、保育所、学校、父兄、区長、子ども会など）による協力体制の組織化する。（早い時点で家庭の課題が見えるのではないかな）</li> <li>・ 各関係機関との連携が希薄である。</li> <li>・ 近年、個人主義的な考え方が際立ち、集落の形態というものが変わりつつある中で子ども達への対応も変わっていくのかなあと思っている。</li> <li>・ コロナの自粛ムードで学校、公的機関からの情報が少なくなった。</li> <li>・ 子供が集落で遊ぶことがあまりみられないことから遊ぶ場所がほしい。</li> <li>・ 集落が広くなり個人の人権があるため接し方に迷ってしまう。</li> <li>・ 少し前までは親と子どもの顔が結びついたのですが、今は分からないこともある。</li> <li>・ 島外からの転入者も多く、周りに緊急時の対応を依頼することが難しいと思う。</li> </ul>
障がいのある人やその家族に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故によって身体動かない人のための働く場所が少ない。</li> <li>・ 医療補助等様々な手助けに家族だけの負担は厳しい。等級に依って負担の軽減を手助け出来ればと思う。課題要望を聞く。</li> <li>・ 家族全員地域との交流ない家庭もある。</li> <li>・ 親も高齢者介護が必要となり、残る子どもが心配である。</li> <li>・ 声かけをしてもなかなか避難しない。また、避難しても集団の中で過ごすことが出来るか心配となる。</li> </ul>
高齢者・介護の必要な人やその家族に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落によっては、高齢化率が79%と高くなっている。</li> <li>・ 高齢者のみの世帯が多い。</li> <li>・ 高齢化が進む中、要介護者が増える。特に一人暮らし等も増える。</li> <li>・ 親族で世話をしているケースがほとんどであり、老老介護が多いと思われる。</li> <li>・ 当集落では高齢者で一人暮らしの世帯が多く、近々限界集落になる所です。包括介護事業も行っていますが、関わりが益々多くなると思います。</li> <li>・ 家族での介護には限界があります。もう少し行政の関与があるといいと思う。</li> <li>・ 親は田舎暮らしで介護が必要と思われるが、子ども達は都会で生活基盤でき、また帰って来ても仕事がないことから家族介護が難しく、必要な介護が受けられていない。</li> <li>・ 支援を嫌がる高齢者の対応や説得が難しい。</li> <li>・ 近くに食料品店が無く困っている。</li> <li>・ 国民年金で入れる施設が多くほしい（町でまたがなくていい様な）</li> <li>・ 介護認定が軽度にも関わらず施設への入居を希望する人がいる。</li> </ul>
生活に困難を抱える人に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1人暮らし、男性に多いと思われる。（ひきこもり）</li> <li>・ 相談する人がいないというよりも、誰も頼らないとの思いが強い人がいる。（近所付き合いがない。）</li> <li>・ 仕事をしてはすぐやめてしまい、生活困窮やひきこもりに陥る人がいる。</li> <li>・ 周りは生活が困窮していると思うが、本人は感じていない。</li> </ul>
虐待問題に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落内に戸建住宅が多いためか、虐待問題に関しては聞いた事は無い。</li> <li>・ 家庭内の問題に立ち入ってはいけない部分もあり、対応が難しい。</li> </ul>

分野	内容
ゴミ・住環境に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められたことを守らない人がいる。</li> <li>・可燃物、不燃物の分別等ゴミステーションへポイ捨てなど集落外からの持ち込みが多い。</li> <li>・誰のゴミか分からない困ったゴミが多い。</li> <li>・粗大ごみは前日又は当日にだすようお願いしたい。</li> <li>・粗大ごみ置き場に処理できない物を入れておいている。</li> <li>・海岸の清掃後は直ちにゴミを整理してほしい。風に吹かれてあっちこっちに飛び散って困る。</li> </ul>
地域活動・ボランティア活動に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアは強制ではなく、1人1人の人生の生き方なので哲学ですが、心を毎日鍛え上げるしかないと思う。</li> <li>・地域内に於いても、活動する人は少ないと思う。また、どのような活動があるか、協力要請を働きかける必要がある。</li> <li>・楽しく体操、どうくさ会等ボランティアをする60代の人がない。声かけてしているのですが、行政からも力を入れてほしい。</li> <li>・老人会での若い人達があまり活動しない。集落での見守りも行事ごとも、もう少し若い人達が支えてほしい。</li> <li>・島外町外の転入者も増え協力者を呼びかける事も必要。近年はワーキングマザーも多くなり課題もあると感じている。</li> <li>・時間の設定が難しい。</li> </ul>
道路・公園・公共施設に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が自由に遊べる公園が少なく、児童公園でもあれば良いと思う。</li> <li>・通学路の整備が必要な場所がある。</li> <li>・町道沿いに側溝の蓋が無い場所があり、ゴミ詰まり等々ある。</li> <li>・道路がデコボコのため、何度もつまずいたり倒れたりしている。高齢者が多いため道の拡張より歩きやすいようにしてほしい。</li> <li>・道路沿いや公共施設の草刈りなど手入れをする人がいない。</li> </ul>
健康や医療に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿を目指すために日頃から体力作り高齢者向けの指導が必要ではないかと思う。</li> <li>・健康になる話、医療の話など年に1～2回でもいいので、集う場所がほしい。</li> </ul>
防災・防犯・交通安全に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で災害時の避難訓練が出来てなくて迷う人が多い。</li> <li>・集落毎の取組について区長を中心に具体化しておく。(各項目)</li> <li>・自主防災の強化が必要だと思う。</li> <li>・避難場所の整備が必要だと思う。(ライフライン、避難道)</li> <li>・交通安全期間に使用する旗竿が傷んで少なくなっている。</li> <li>・道路の白線の整備が足りていない。(消えている)</li> <li>・反射鏡、道路灯の整備が必要な場所がある。(県道)</li> <li>・砂防ダムの転落防止柵がない。</li> <li>・落石防止ネットがさびて、危ないところがある。</li> </ul>
青少年(ニート・引きこもり、非行等)に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の気持ちを理解することが大事と思う。大変に難しい場合専門家に相談すべきと思う。</li> <li>・1人住まいで地域交流がない方へは女性の民生委員ではなかなか訪問しづらい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートに「プライバシー保護」として回答を避ける住民が増加していると思う。(匿名でも、固有名詞が分かるような設問設定)</li> </ul>

### ◆すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと

「災害時における体制の整備」が 13 件と最も高く、次いで、「地域活動ができる人材の育成」の 12 件、「自主防災組織等の整備」の 10 件の順となっています。

〈複数回答〉 n=18



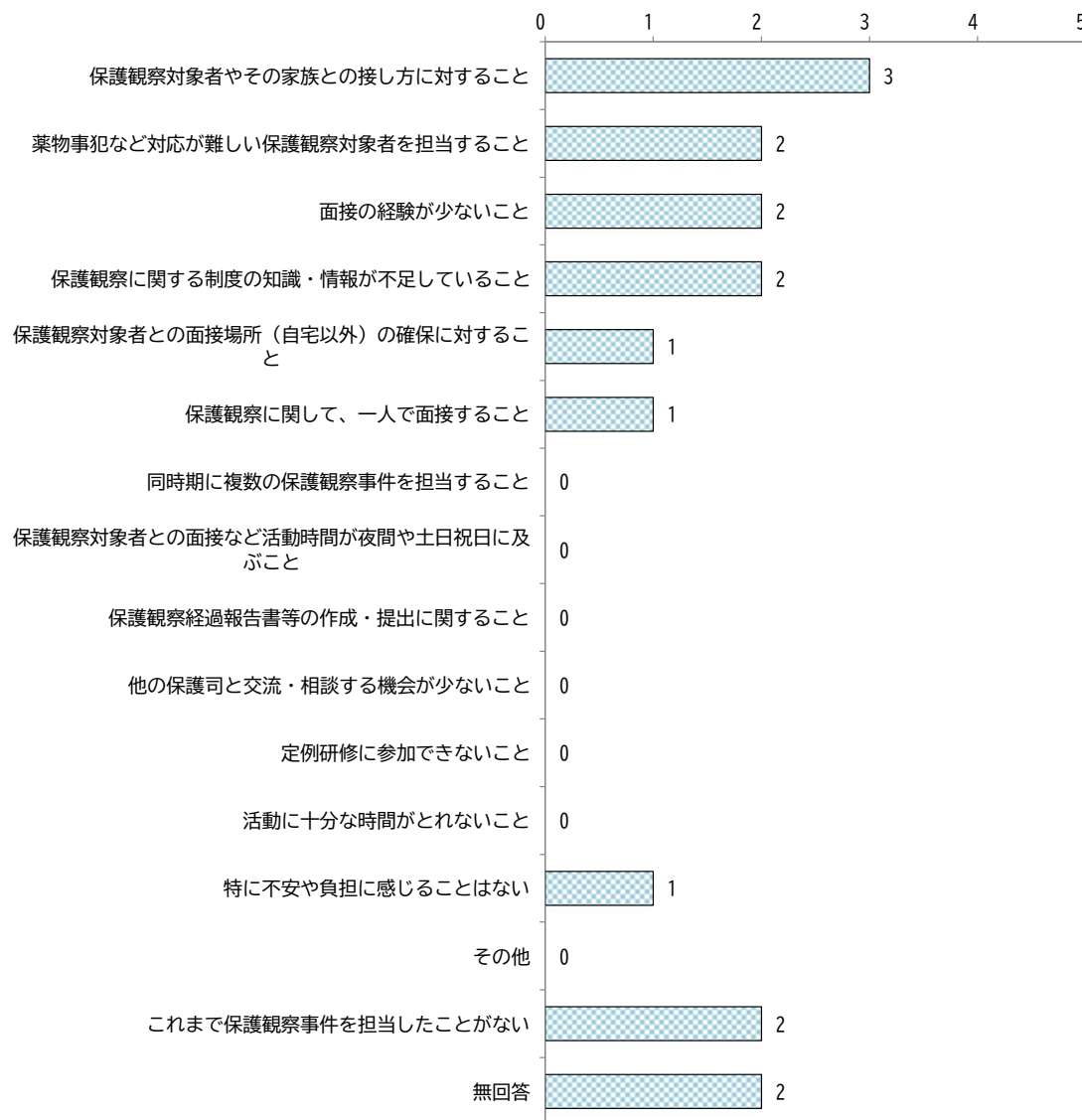
## ウ. 保護司調査

### ① 「保護観察」を行う上で不安や負担に感じること

「保護観察対象者やその家族との接し方に対すること」が3件と最も高く、次いで、「薬物事犯など対応が難しい保護観察対象者を担当すること」「面接の経験が少ないこと」「保護観察に関する制度の知識・情報が不足していること」がともに2件となっています。

〈複数回答〉n=5

(件)



## ◆龍郷町における再犯防止に関する必要な取り組みについて

### ● 就労・住居の確保等について

- ・ 出所者の帰住先の確保について、町営住宅の入居緩和はできないか。
- ・ 就労については、協力雇用主制度に関する世間の周知状況が進んでいない、雇用主に対する啓発が必要である。
- ・ 人口 6,000 人の町では世間が狭いのもあり、また住居については、空家が多く住居の確保は難しい。また、個人事業者が多く、就労する場所がない。

### ● 保健医療・福祉サービスの利用の促進等について

- ・ 高齢者、障がい者の対象者が福祉的支援の必要性を自覚しなかったり、基本的知識が不足している。そのため家族等支援や福祉施設等の活動の支援をする取組が必要である。
- ・ 保護観察者へのいろいろな公共サービスへの理解度が希薄であり、またあまり理解しようとしなない。高齢化が進むなか、高齢者福祉サービスの充実を望む。

### ● 非行の防止・学校と連携した修学支援等について

- ・ 児童生徒の非行防止として、①子ども居場所づくりの推進②ひとり親家庭への総合的支援③スクールカウンセラー相談対応④ソーシャルワーカーによる支援⑤声かけ運動の推進が必要となる。
- ・ 町内には小学校、中学校、特別支援学校があるが、教育現場での連携は難しい。支援できる専門的な知識、技術を持っている人材がいない。

### ● 犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導・支援等について

- ・ 犯罪や非行の内容はもとより、対象者の年齢心身の状況、家庭環境、交友関係、経済的な状況等を適切に把握したうえで、適切な支援を行うこと。
- ・ 自分が犯した罪を再確認し、反省して本当に心から社会復帰する、したい強い気持ちが必要。

### ● 民間協力者の活動の促進、広報・啓発活動の推進等について

- ・ 犯罪をした者の指導、支援にあたる保護司、更生保護女性会、BBS 会がボランティアで取り組んでいる。
- ・ 保護司だより「どうくさ」を令和2年9月に創刊し、今年の2月には第4号を発刊する。
- ・ 行政、民間とそれぞれの立場から支援すべき。最終的には行政に頼ることになるのではないか。

### ● 再犯防止のための連携体制の整備等について

- ・ 民生委員、児童委員、区長等の各種団体を対象とした再犯防止や更生保護の視点を盛り込んだ情報の提供や研修会の実施が必要ではないか。
- ・ 地域の理解、支援が必要となる。

## 工. 専門職調査

### ◆日頃の業務を行う上で困っていること

日頃の業務で困っていること
・時間が足りない。
・利用者さんとの対話に時間が少ない。
・会議をもつ日時の段取りが難しい。
・事務作業や更新研修で用意する書類が多く、利用者や家族から夜間、休日に連絡が入り、気が休まらないこともあり。仕事量が多く困っている。
・人材不足、職員の育成、資質の向上。
・コロナ禍での新たな業務への対応およびスタッフのストレスの増加。
・プラン作成（目標設定）。
・ケアマネに対する必要以上の要求がある。
・苦情への対応。
・アポをとった上で訪問を行っても、留守で複数回連続して会うことができないケースがある。
・困窮世帯や困り事がある方とつながれずにいる。
・利用したいサービスがあっても、対応できる事業所が少ない。又はスタッフがいない。
・本人が在宅療養希望であっても、介護できる家族が少ない。
・利用者ご本人を少しでも元気にするための、目標の見極めが難しい。病状の悪化防止のために、家族に協力してほしいがなかなか協力が得られないことがある。地域も高齢化してきており見守り体制の構築が難しい。介護保険への理解がまだまだない。
・利用者の高齢化により現在の作業では適応できない利用者が増えてきている。
・一人でなく、世帯での問題ケースがある。
・他機関の関わるケースへの対応。
・保護者のフォローを得られない方が一定数おられる。（障がい受容がなかったり、保護者自身に支援が必要であったり）
・保護費の算定方法について説明しても理解をしていただくのが難しい。

## ◆最近、気になる問題や課題

### ●子どもや子育てに関すること

気になる問題や課題
・ 中学校統一、人口比では町内一校で充分だと思う。クラスが増えることでスポーツ、文化部の幅も広がり団体スポーツや学業向上につながると思う。(語学教育、学費免除)
・ 児童、生徒数の減少。
・ 地域の学校の支援学級の子も達が、高学年中学生になるとつながらないことから、親の心配、負担増、不登校になりがちと感じている。
・ 不登校の子もがつながる場がない。
・ 親が仕事や家、自分のことで手一杯となり、子どもと上手くコミュニケーションがとれていないこと。
・ ひとり親家族への支援。
・ 乳幼児の発育、発達の確認。
・ 発達障がい気付かず進級してしまうケースがある。
・ コロナ禍での自粛などが、子どもの発育に影響するのか。
・ 利用目的にズレが生じている。
・ サービスにのらない子の支援がある。
・ 保育園の人材不足。

### ●障がいのある人やその家族に関すること (身体・知的・精神)

気になる問題や課題
・ 障がい者の子供に対するケアが必要だと思う。(特にメンタル)
・ 子供の権利について。(親がこのくらい調子が悪くなった入院させたい…等)
・ 学校を卒業した後の支援について。(障がい者の支援)
・ 何らかの障がいのある子どもが、親の支援を受けられなくなった場合どうなるのか。
・ 高齢化により家族の身元引受人がいなくなる。
・ 利用者が入所したくても、待機者が多く施設に入れない。
・ 障がい者施設入所者の高齢化。
・ 入所、通所希望で見学など来られるが、設備等の問題で断られる事もある。
・ 利用者の工賃を向上させることが課題となり、また、就職先も不足している。
・ 現在、作業能力の高い利用者は企業への就職が一般的になっており、なかなか施設に目を向けてもらえない。
・ 就労時に車等の移動手段がない場合、バス等の公共交通機関利用となるが、半額となっても負担が大きい。
・ 障がいサービス(リハ)が実施できる場所が少ない。

### 気になる問題や課題

- ・町内での地域格差あるように感じる。(治療、買い物、交通、サービス等)
- ・グループホーム、一人暮らしを出来る環境不足している。
- ・家族の協力が少ない。
- ・家族が事業所に求めるサービスと事業所が提供できるサービスの違い。
- ・社会や地域の方々との交流があまり無い為か通販カタログが届くと金銭感覚が理解できず注文してしまう事案が多く困っている。
- ・身体障がいがあっても本人や家族が希望すれば健常者と同じ学校に通うことができれば、バリアフリー化が自然に整ってくるのではないかと思う。
- ・障がいのある人と住民が日常的に関われる場が不足している。私も小さい子がいるが実際に関われる場があるのか分からない。小さい頃から日常的に関わることで視野も広がるのではないか。
- ・交流の場が少ない。
- ・当事者団体、集える場がない。
- ・精神障がい者の家族会がない。
- ・障がいのある人が高齢化し介護申請をされる方が増えている。全盲の方は通常の通所先では受け入れてもらえないのが現状で、介護保険で賄えるサービスでは十分な支援ができない。
- ・意思疎通の難しさ。

### ●高齢者・介護の必要な人やその家族に関すること

### 気になる問題や課題

- ・介護サービスに頼りすぎず、親族で介護を考える機会をつくる。
- ・独居暮らしの方や老老介護されている方々や、事故や急病時の対処法の連携の取り方。
- ・要介護認定にはなっていないが、介護が必要ではないかという人が増えている。
- ・介護は家族がするものだと思い、介入拒否がある場合や同居家族に精神障がいのある人がいるなど多課題を抱えていることがある。
- ・独居で介護者がいない方や、家族がいても協力が得られない方もいる。
- ・認知症高齢者の居場所が必要だと思う。
- ・高齢者を預ける施設料金の高さ。年金ではまかなえない。家族の負担も大きい。
- ・介護保険サービスから地域事業への移行が難しい。
- ・訪問系のサービス事業所が少なく、在宅生活を希望されても受け入れ難しいことがあった。
- ・デイサービスやデイケアではなく、趣味を活かせる場。介護保険とは別で独特なものがあったらいいのではないか。



●生活に困難を抱える人（生活困窮者・子どもの貧困、ひとり親、ダブルケアなど）

気になる問題や課題
・生活困窮者向け就労準備サービスがない。
・生活保護者が生活困窮者の定義から外れるため、生活保護を受け、ひきこもるケースがある。
・経済的な面からサービスの利用を拒む。
・困っている事への発信をすることができていない。
・父子世帯で、息子と娘の子育てについて周りに相談するのが難しい。
・生活困窮者は自らがその対象者だと気づいていない事がある。
・支援に介入できない（拒否する）人への支援や見守り。
・悩みを抱え込み、深刻な状況になって相談すること。
・高齢者夫婦世帯、独居世帯が増え家族が近隣にいない、家族の協力があまり得られない。
・ヤングケアラーが外に対し状況発信が出来づらい。
・子どもの貧困の解消。

●虐待問題に関すること（児童、高齢者・障がい者、家庭内暴力など）

気になる問題や課題
・虐待認定のための対応方法の確立が必要。
・問題になる家庭ほど色々な事情があるので難しい。
・介護、福祉サービスが入っていない家庭のフォローが難しい。
・話し方、介助（接し方）での理解不足。
・認知症への理解不足。

●ゴミ・住環境に関すること

気になる問題や課題
・住宅の不足。
・集落によっては買い物する場所がなく、バイク、車がある人でなければ住みづらい。
・世界遺産登録にふさわしいごみ投棄のない町づくり。
・草木を燃やせず困るので、処理場や小さく切って堆肥にする施設があればいいと思う。
・ゴミの分別がしっかりされていない。
・海ごみの問題。

## ●地域活動・ボランティア活動に関すること

気になる問題や課題
・ 集落ごとの活動への参加ができていない。
・ 住民相互の助け合いは良い点もあるが、軽い家事支援など介護保険を使わずに解決するためには、低報酬で制度化した方が良いと思う。
・ コロナ禍でのイベントの減少。
・ 介護や障がいサービスでは対応が難しいニーズがある。
・ 介護ボランティアの充実。

## ●道路・公園・公共施設に関すること

気になる問題や課題
・ 歩道や車道に手入れが行き届いていない場所があり危ない。
・ 公園の整備、維持。
・ 街灯が少なく暗い。
・ 龍郷町内にプール施設がない。
・ 子どもの遊べる場所が少ない。
・ バスの本数が少なく、バス停まで歩くのが大変と訴えがあり送迎している。
・ 障がい者駐車場エリアに一般の人が利用して場合がある。

## ●健康や医療に関すること（メンタルヘルス含む）

気になる問題や課題
・ メンタルヘルスをみれるクリニックが龍郷町にはない。
・ 龍郷町内にも、入院できる病院があったらと思う。
・ 訪問系のサービスが少なく、家庭（キーパーソン）の負担が大きくなっている。
・ 精神科治療を入院が必要な場合、北大島には医療機関が1か所しかなく、本人、家族の理解を得ることが難しい。
・ 認知症に対する理解はまだまだ不足している。
・ アルコール関連の普及啓発が必要。
・ 健康づくりに関する体操ができる場所の無料貸出や費用の助成があればいいと思います。
・ コロナによる影響が心配である。
・ ストレスをかかえている職員がいる。

## ●防災・防犯・交通安全に関すること

気になる問題や課題
・バス停や通学路、横断歩道等に、死角になって危ない場所がある。
・交通事故が多発する道路あり。近くに保育園もあるため心配
・片側一車線で追い越し禁止区間での通話のために停車している事
・今回の津波避難の際、担当者全員の安全を把握できなかった。
・聴覚障がいの方から今回の津波警報時にエリアメールや防災無線に気付かなかったという話を聞いた。（※同居の方の声掛けで避難はできた）
・災害時の避難方法（車のない家庭、独居、寝たきり）
・入所者の無断外出や外出前に聞いた所とは違う場所へ行かれるケースがある。
・明らかに認知症でも免許更新できてしまうスクリーニングの甘さ
・認知症高齢者や知的・精神障がい者が消費者トラブルに巻き込まれたり、債務問題について相談に対応する事例が増えている。
・認知症カフェの開催。
・グループホームが少ない。

## ●青少年（ニート・引きこもり、非行など）に関すること

気になる問題や課題
・引きこもりに関する相談や支援に関わる事があるが、専門的な知識がなく支援が行き届かない。
・引きこもりの情報等が分からない。
・原因が知的障がいや発達障がいであるケースも見られる。
・義務教育や学校修了後の状況の把握。教育部署と福祉部署の引継ぎ

## ◆最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例

制度上のサービスで解決できない問題・事例
・生活困窮者とその後の生活保護受給者へのサポート策が全国的には行なわれているが、奄美では行われておらず、時々問い合わせがあっても対応できない。リモートワークに対応しているが、島内での認知が低すぎる。
・独居の方の入院、入院中、退院時に動いてくれる人がいない。（子供はいるが他県在住）
・庭の草むしり、過疎地域の買物支援、話し相手傾聴ボランティア等、院内付添い状況報告を要する通院、入院をペットの世話を理由に拒否するケースがある。
・外出等の行動抑制理解が難しい。知的障がい、発達障がい、認知症の方が感染症に罹った際の対応。
・高齢者向けの宅配弁当やヘルパーを希望する方が増えているが、事業所不足、人材不足等の理由で希望するサービスを利用できない方も多い。
・高齢、独居など車のない世帯の対応。

## オ. 教育・保育調査

### ◆日頃の業務を行う上で困っていること

日頃の業務を行う上で困っていること
・家庭の保護者の協力を得ること。
・緊急時に連絡しても連絡がとれない保護者がいる。
・利用する家族との信頼関係作り。
・具合が悪い中での児童の利用、病院受診がない場合もある。
・校内会議等で特別支援が必要な児童がいた際、保護者が相談に行けそうな発達支援センターのような施設（発達、検査をしたり、その結果を説明してくれたりする施設）がない。
・児童福祉について、どんな施設があり、どのように誰が（親または学校）どこに連絡をすればよいか分かる一覧表のようなものがあったり、その説明を聞いたりできたらよいと感じる。
・関係機関との連携が必要。
・近隣（龍郷町内）での保育所・園間での連携がとれていない、弱いように感じる。
・預かりを行う子どもの年齢や援助内容、預かりを行う時間の長さ等に配慮しながら、サポート会員（預かってくれる方）を探し、手配すること。
・保育の質の向上が必要。
・働きやすい職場、環境作りを心掛ける。
・施設の老朽化。
・施設面積に対して利用児童が多すぎる。
・園児の減少。
・保育所の場所が昼間は高齢者しかいない地域が多いので、不審者対策が心配である。
・コロナの状況を見ながらのイベントの開催。（予定していても延期や中止になってしまうことが多い。）
・3密の中での感染症予防の徹底。

### ◆最近、気になる問題や課題

#### ●子どもや子育てに関すること

気になる問題や課題
・保育所児の減少が心配される。
・町内の全ての保育所において、保育士の確保が困難な状況にある。
・家庭教育力の低下を感じることもある。
・子どもの実態からネグレクト傾向が疑われるが、本当の実態がつかみづらい面がある。
・基本的な生活習慣が身につけていない児童がいる。

### 気になる問題や課題

- ・発達に支援が必要と思われる児童がいるが、保護者がそこまで問題意識がないため療育等になかなかつなげられない。
- ・ネット環境が整い多くの情報があることで子育てに不安を感じる人がいたり、逆に自分なりの解釈で子育てを行い子育ての芯をとらえられない親が増えていると感じる。

### ●障がいのある子どもやその家族に関すること

#### 気になる問題や課題

- ・地域の理解が進んでいない。
- ・周囲の理解が必要。
- ・相談しやすい環境が必要。
- ・社会の中で共生できている家族もいるが子育てに自信がなく、「障がいがあるかもしれない」との不安を抱えながら生活している人もいる。相談できない。人の目が気になる。
- ・親が子どもを育てていく中で「あれ?」「うちの子他の子と違うな」と少し疑問に思った時に気軽に相談できる場所が少ない。
- ・障がいを持つ子どもたちのショートステイ利用ができる施設が限られている。(保護者の緊急時に宿泊で預かってもらえる施設)
- ・家族が安心して生活が継続できる様学童内でもできるかぎり支援をしていきたいが、個々の成長、多様な障がいに対する支援、対応する職員の資質、人手の不足、障がい児が安心して利用できる施設設備が必要だと思う。
- ・放課後デイサービスに通う児童がどのような活動や支援を受けているのか知りたい。
- ・通級教室の需要が高まっているが、移動に時間をとられる。

### ●子どもの健康や医療に関すること

#### 気になる問題や課題

- ・歯の治療が長期化し途中で行かなくなる家庭がある。
- ・虫歯治療を必要とする子が増えている。
- ・本来なら保護者が気づき、心配して相談したり受診するべきだと思う。発熱、鼻水、咳等多少の体調不良では受診、児童の休息もない場合もある。無償化になってもなぜ受診しないのかと思う。

### ●生活に困難を抱える世帯に関すること (生活困窮者・子どもの貧困、ヤングケアラーなど)

#### 気になる問題や課題

- ・生活保護家庭の見守り。
- ・自ら相談に来庁することがないため、子どもの関わる機関との連携が大切になる。そのため、学校訪問等に有する時間と人が必要ではないか。
- ・生活困窮者について学校に情報が伝わってきにくい状況である。
- ・他人に困っている事を知られたくない、隠したがる傾向があるのではないか。どこからどこまでが生活困窮、貧困、ヤングケアラーかわからない。当事者も気づきにくい。助けを求めにくい。

## ●虐待問題に関すること（児童、家庭内暴力など）

気になる問題や課題
・子どもに関係している機関、特に学校職員のサポートが必要ではないか。
・言葉の暴力だったり、ネグレクトだったり、気づかなくて親も自分の状況がわかっていない人がいる。
・身体への暴力、虐待は迅速な対応が必要だと思うが、心理的虐待やネグレクトはどこから介入すればよいのか判断が難しい。
・親のことが好きなので、自分がどうすれば親の機嫌をそこねないか、子どもの方が気を使っている事がある。

## ●福祉教育に関すること

気になる問題や課題
・大変そうだという概念がある
・誰もが幸せに暮らしていくために学びの場が少ない。
・都会との学力の差。
・子どもの遊び、ふれあい方、成長過程等を気軽に聞けたり、学べる場が少なすぎる。

## ●地域活動・ボランティア活動に関すること

気になる問題や課題
・地域では、年齢の高い方はがんばっているが、後継者がいない。
・地域の方との関わりがほとんどない。

## ●道路・公園・公共施設に関すること

気になる問題や課題
・荒波地区に公園を設置してほしい。
・雨天時の室内遊戯場があるといいと思う。
・子どもが自由に遊べる広場や公園がほしい
・町内には2年ほど前に初めて公園ができました。図書館も小さく、新書は他に比べて少なく感じる。
・学童児も校庭を使用しているが、30年以上前の遊具が劣化し使用禁止になってきている。
・レンタカーの交通量が多く、登下校時の事故が心配。

●防災・防犯・交通安全に関すること（通学、避難など）

気になる問題や課題
・学校は避難所になるため、避難食を3食分くらい備蓄しておく。避難食を食べる訓練もする。
・津波や土砂災害時子どもを連れての避難所までの道路整備が不十分である。
・地震の際、学校裏の山が避難所になっているが、土砂崩れが起こると避難できなくなる。津波到達時間の想定が最短で約3分のため、危険を冒して離れた場所まで避難せざるを得なくなる。
・新設する子どもの施設については、近隣の状況把握を細かく丁寧に行ってほしい。
・通学路が所々狭くなっているところがあり、国道でも街灯が少なすぎる。
・近隣に建物がない（人通りが少ない）ので、災害や不審者侵入時に助けを求めることが難しい。

●不登校・引きこもり、非行などに関すること

気になる問題や課題
・SNSに関する課題が多くなっている
・親たちはなかなかSOSが言えず「相談」することをしない。子ども親もネットで言い、人とのコミュニケーションが少なくなっている。
・適応指導教室はとてもありがたい。
・その裏にある原因が大事だが、不登校児が増えているように思う。

●その他

気になる問題や課題
・未就学のお子さんに関わる保護者の方や関係機関の方への就学（お子さんに合った学びの場）に関する啓発。
・移動費（交通費）の助成。（障がいのある人の社会参加）
・障がいのある人の自立した生活の場の提供。
・妊娠期から成人まで子どもに関わる保健師の数が足りないため、巡回等が少なくなっている。又、要対協の家族支援にも入りこめない。

◆最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例

制度上のサービスで解決できない問題・事例
・町の行政放送を聞き逃すことが多く、しまったと思うことが多い。
・気になる児童、発達障がいのある児童の保育や修学について各機関との連携がスムーズに行えずにいる。一番困っているのが、児童や保護者である。その周りの関わる大人側の問題も多い。
・一時預かり希望者があるにもかかわらず、定員の関係上断らなければならない。
・仕事や私用でファミサポの利用頻度がどうしても多くなってしまおう方に、月極料金で提供出来たらと思うがなかなか難しい。（預かってくれる方に直接料金を支払うため）

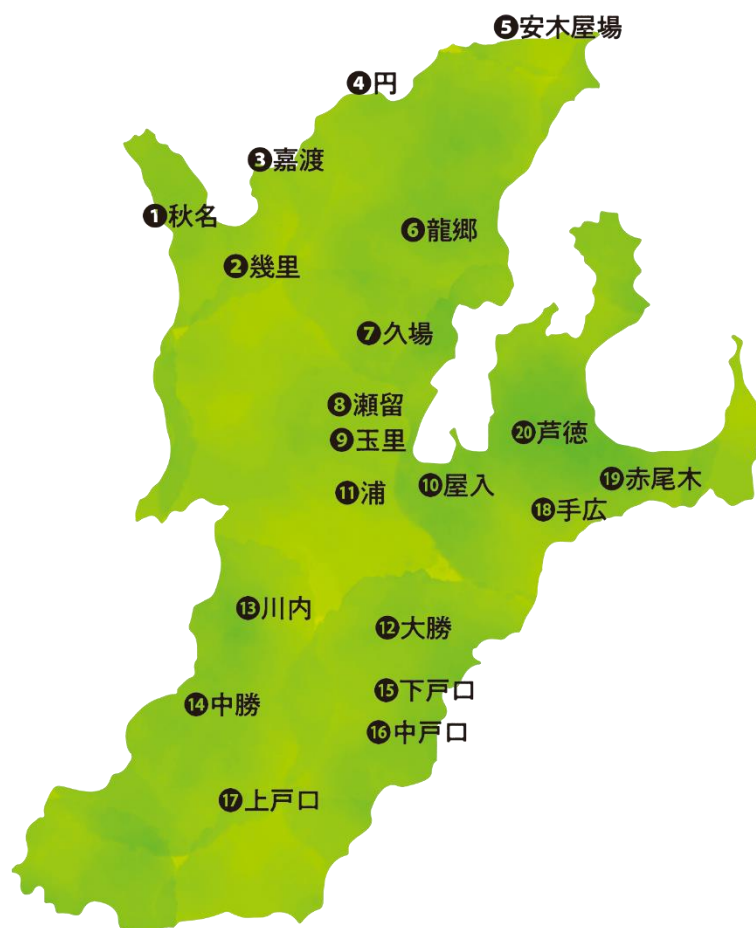
### (3) 地域座談会の実施について

#### ① 地域座談会の概要

町内 20 集落の区長、民生委員・児童委員、世話焼きさん、子ども会育成会、高齢者代表などに参加いただき、集落の課題やあるべき姿、地域づくりの役割分担などの意見交換をしていただきました。

校区名	開催日時	参加者数	場所
秋名校区	令和4年6月25日 午前	17	秋名コミュニティーセンター
円校区	令和4年7月2日 午後	6	円公民館
龍郷校区	令和4年6月25日 午後	12	龍郷保健福祉館
龍瀬校区	令和4年6月26日 午後	22	瀬留生活館
大勝校区	令和4年6月26日 午前	24	大勝生活館
戸口校区	令和4年7月3日 午前	16	戸口地区振興センター
赤徳校区	令和4年7月3日 午後	18	芦徳公民館

#### ◆20 集落の位置図





## ② 地域座談会で話し合ったこと

### 【秋名校区】

#### 【秋名集落】

テーマ (課題等)	●一人暮らしの高齢者の増加 ●子どもと高齢者との関わりの減少		
集落の理想像	<b>子どもや高齢者が安心して暮らせる秋名</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント等への参加、それを口コミで広げる</li> <li>・避難場所の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からの声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋名の郷との連携</li> <li>・一人暮らしの方が行きやすいイベントの周知</li> <li>・新しくなった秋名集会所を集いの場にする</li> <li>・休耕田の有効活用</li> <li>・店や施設との連携</li> <li>・見守りグループと交流</li> </ul>	

#### 【幾里集落】

テーマ (課題等)	●高齢者の困りごとの把握 ●皆でゆらえる場所がない		
集落の理想像	<b>高齢者が暮らしやすい集落！</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幾里はまゆうの声かけ</li> <li>・自分から助けを求める</li> <li>・早目の避難(本人の意識)</li> <li>・災害グッズの常備</li> <li>・日々の健康管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所での声かけ</li> <li>・話し相手→本人の困りごと把握</li> <li>・ストレス発散</li> <li>・情報収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域との合同訓練</li> <li>・どっくさ会(体操会)</li> <li>・老人クラブの見守り隊:登下校時(世代間の交流)</li> <li>・消防団のパトロール</li> <li>・壮年団、はまゆう会の火の用心、パトロール</li> </ul>	

#### 【嘉渡集落】

テーマ (課題等)	●高齢者の一人世帯が多く、淋しさを訴える方がいる ●転入希望者が住む場所がない		
集落の理想像	<b>子どもから高齢者が楽しくいきいきと暮らせる嘉渡集落</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どっくさ会への参加</li> <li>・困ったことを相談できる(発信できる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆で声かけ合って、どっくさ会に参加できる環境をつくる。</li> <li>・困った人の相談を受けて目配り、気配りを心がける(ゴミ分別、買物支援)</li> <li>・スマホの普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ教室等の講習会を開催</li> <li>・DVD等の機器の活用(プロジェクター)</li> <li>・スマート農業できる人を地域おこし協力隊として呼び込む</li> <li>・若者向け共同住宅やシェアハウス等の建設</li> </ul>	

## 【円校区】

### 【円集落】

テーマ (課題等)	●人口減少 ●放置空き家・空き地 ●産業の衰退		
集落の理想像	<b>自然豊かな集落で、若い人の活躍を応援できる村づくり!</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・U、孫ターン政策・呼びかけ</li> <li>・集落行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致</li> <li>・どっくさ会への参加呼びかけ</li> <li>・同世代の仲間づくりの機会を増やす</li> </ul>	

## 【龍郷校区】

### 【安木屋場集落】

テーマ (課題等)	●コロナ禍以前の活動に代わる関わりづくり ●若者の地域福祉への参加		
集落の理想像	<b>笑顔あふれるやすらぎの郷 安木屋場</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落行事に参加すること</li> <li>・常に笑顔の心を持っていく</li> <li>・どっくさ会を心のよりどころにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが声かけをする(どっくさ会)</li> <li>・おすそ分けで見守りする</li> <li>・普段からの見守り</li> <li>・災害時の声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンドの整備と活用(草やぶにしない)</li> <li>・安木屋場集落総会に議題としてしっかり提案して、解決に向かいます(ゆらい場所整備の一例)</li> <li>・カラオケ大会する(賞品付)</li> <li>・マップづくりをして支援が必要な人を把握する</li> </ul>	

### 【龍郷集落】

テーマ (課題等)	●世代間の交流が少ない ●災害時の連携		
集落の理想像	<b>復活!! 隣組 ゆらおう知ろう 龍郷集落</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の集まりに参加する</li> <li>・防災グッズを買う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣組を復活させる!!(月1回程度の活動)</li> <li>・200円会費の飲み会</li> <li>・若い人が高齢者にスマホの使い方を教える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホ勉強会開催</li> <li>・避難場所の再検討</li> </ul>	

## 【龍瀬校区】

### 【久場集落】

テーマ (課題等)	●人と人とのつながりが弱い		
集落の 理想像	人と人とのつながりが密になり、みんなが楽しくふれあえる集落		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・集まりに積極的に参加する	・気持ちよく笑顔で声かけをする	・老人クラブへの積極的参加 ・作業や行事への積極的参加 ・公民館の貸出 ・空き家の活用	

### 【瀬留集落】

テーマ (課題等)	●本来の集落のあり方が薄れてきている		
集落の 理想像	子どもからお年寄りまで笑顔あふれ誇れる 瀬留集落		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・集落行事に参加する ・親子の会話	・行事参加の声かけ (同世代からの声かけ) ・コミュニティの場をつくる (若者と高齢者の相互理解のため)	・八月踊りの伝承 ・学校と連携 ・浜下れ行事:子ども会中心に 集落全体で取り組む ・公民館に集合する機会を多く する ・子ども達が遊べる場所づくり、 親も一緒に過ごせる場所づく り	

### 【玉里集落】

テーマ (課題等)	●地域がまとまるための一歩。どうしたら		
集落の 理想像	一致団結!!		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・集落行事に積極的に参加する ・集落民意識を持つ	・お互いにあいさつ、声かけをする	・転入者に対し、集落からの働きかけをする(訪問) ・子どもから高齢者まで集落全体で楽しめるイベント開催 ・玉里だよりの活用	

### 【屋入集落】

テーマ (課題等)	●交流が希薄になった ●受け入れる住宅が少ない		
集落の理想像	<b>子どもの声が聞こえる 屋入集落</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・集落の行事に参加する (一人一人が主役！)	・隣近所で交流を続ける (声かけ)	・公民館で人が集まる機会をつくる ・他集落との交流 ・どっくさ会の活性化 ・昔の年間行事の復活	

### 【大勝地区】

#### 【浦集落】

テーマ (課題等)	●集落行事等の様々な交流が少なくなっている		
集落の理想像	<b>八月踊りで笑顔あふれる幸福の輪</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・集落の集まりに参加する ・困ったことがあれば、いつでも声を発信できる	・声かけをする (若い人同士でも)	・子ども会と老人クラブの交流 ・八月踊りを生活館で高齢者から転入者へ教え、1学期に1回子ども達に発表する ・人と人とのマッチング	

#### 【大勝集落】

テーマ (課題等)	●交流がない ●コミュニティの希薄化		
集落の理想像	<b>皆で結いの精神で支え合う地域</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
・イベント毎に参加	・声かけ ・気軽な会話	・集落のイベント情報を提供する ・集落 MAP の作成 ・新築祝いなど、皆でお祝に行く ・顔つなぎ	

【川内集落】

テーマ (課題等)	●災害時の共助体制の確立	
集落の理想像	若者家族が増えて、いきいきとした活気ある集落	
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の人との日頃からの交流</li> <li>・早めに避難する</li> <li>・集落の行事に参加する</li> <li>・避難グッズを用意する</li> <li>・災害の情報を早めにチェックする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけ</li> <li>・避難の手伝い</li> <li>・障がいのある人への連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の防災組織を活用する</li> <li>・避難所での運営</li> <li>・災害・防災マップをつくる</li> <li>・避難させる担当を決める</li> <li>・大美川の河川美化</li> </ul>

【中勝集落】

テーマ (課題等)	●伝統行事やどっくさ会の後継者不足 ●先住民と転入者との関係性	
集落の理想像	お互いを認め合い、誰もが参加できる集落	
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な行事に参加する</li> <li>・面倒くさがらないようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけをして、参加を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体が連絡を取り合う</li> <li>・八月踊りなど教え合えるように、月1回でも集まる(人口:48/人)</li> <li>・みんなで仲良く、楽しくゆらおう</li> <li>・一人一役の必要性</li> </ul>



【地域座談会の様子】

## 【戸口校区】

### 【上戸口集落】

テーマ (課題等)	●地域内で顔を合わせる機会が少ない		
集落の 理想像	<b>話題の絶えない笑顔あふれる 上戸口集落</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まりに参加する</li> <li>・飲み物を持参する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼びかけあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まる場所にイス・ベンチを設置する</li> <li>・行盛神社六月灯を復活させる</li> <li>・年に何度か集落で話し合う</li> <li>・交流する行事をつくる(老人クラブ、子ども会の交流など)</li> <li>・公民館をオープンにする(時間など決めて)</li> <li>・100円食堂を始める</li> </ul>	

### 【中戸口集落】

テーマ (課題等)	●集落行事や、学校教育と地域の交流が少なくなった		
集落の 理想像	<b>全世代が協力し、仲良く集える中戸口</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸行事に参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達と花壇づくり</li> <li>・子ども会に八月踊りの指導</li> <li>・BBQ、GG等の行事の場をつくる</li> <li>・老人クラブと児童生徒との本読みやもちつき交流の復活</li> <li>・みんなが参加できるスポーツ等考える</li> </ul>	

### 【下戸口集落】

テーマ (課題等)	●高齢者と子ども達が一緒にゆらえる場所		
集落の 理想像	<b>1人1人が思いやりの心を持って行動する下戸口集落</b>		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館に足を運ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけをする</li> <li>・公民館に集まり、情報共有をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下戸口公民館の広場に集まり、話をする</li> <li>・気軽に集えるベンチの設置</li> <li>・保育所跡の利用</li> <li>・地区のいろいろな会で話をする ことで、話題や解決策が出る</li> </ul>	

## 【赤徳校区】

### 【手広集落】

テーマ (課題等)	●地域のつながりの弱まり		
集落の 理想像	「 <b>自他共栄</b> 」の手広		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけをすること</li> <li>・行事に参加すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まわりに声をかけること</li> <li>・高齢者と子どもの見守り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と子どもの交流</li> <li>・行事への参加・呼びかけ</li> <li>・高齢者と子どもの見守り</li> <li>・結いの意識</li> <li>・仕事、子育ての間にでも地域で、できることをする</li> </ul>	

### 【赤尾木集落】

テーマ (課題等)	●地域の担い手の育成		
集落の 理想像	お互いがつながりをもって、声かけあえる赤尾木集落		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事に参加する</li> <li>・集落だよりで、行事の確認をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけあって参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場をつくる(家族ぐるみで参加できる)</li> <li>・集落の総会等で、美化作業や老人クラブの現状を説明し、参加依頼をする</li> <li>・老人クラブの維持存続</li> </ul>	

### 【芦徳集落】

テーマ (課題等)	●いろいろな世代の安心・安全の確保		
集落の 理想像	いろいろな世代が安心・安全に暮らせる集落		
自分や家族でできること	隣近所でできること	地域や団体でできること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別、ゴミ拾い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで声かけ(気にかける)</li> <li>・行事への参加の呼びかけ</li> <li>・避難所内(特別支援学校)の備蓄等(毛布、食料、トイレの設置など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別を促すチラシ配布</li> <li>・行事の開催</li> <li>・集落の花壇等の手入れ</li> <li>・LINE、オンラインミーティングを活用する</li> </ul>	

### 3. 計画策定に向けての課題の整理

#### (1) 地域コミュニティの維持と強化

近年、少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化等により、地域住民同士の関係性が希薄となり、これまで地域社会が果たしてきた助け合いや支えあい等の機能の低下が危惧されています。

また、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人と人とのつながりづくりが一層困難な状況となりました。

住民アンケート調査においても、親しく近所づきあいをしている割合は3割程度となっており、特に若年層の割合が低くなっていることなどにより地域でのつながりも希薄化がみられ、地域でのつながりや情報共有が難しい状況になりつつあります。

団体等の活動においてもメンバーの高齢化や固定化などから活動の停滞がみられ、さらなる人口減少や少子高齢化の進行により、将来的に住民同士の支え合いの関係性が希薄化し、地域力の低下につながっていくことも考えられます。現在まで築かれている住民同士の支え合いの関係性を維持していくために、多世代が交流し、生きがいを持てるような機会づくりや住民一人ひとりの意識啓発が必要です。また、地域内のコミュニティを基本としつつも、包括的な支援を行っていくために住民・行政・社会福祉協議会・関係団体等の多様な主体がつながりをもつことが重要です。

#### (2) 福祉を支える担い手の確保と育成

住民アンケート調査では、ボランティア活動に参加したことがあると回答した割合は5割程度となっています。

また、今後の参加意向では「機会があれば参加したい」と回答した割合が半数を超えていることから、活動をしていない住民でも活動意欲は高いといえます。

また、集落での大きな問題として、「活動や役員、民生委員などのなり手・担い手が少ない」の割合が最も高く、関係団体等アンケート調査においても、活動するうえでも、活動メンバーの減少や高齢化、マンネリ化といった課題があげられています。

さらに、地域福祉の中心的な担い手と期待されている社会福祉協議会や民生委員・児童委員の活動内容の認知度が低くなっていることから、周知を図り理解を深めていくことが必要となっています。

今後、意欲ある住民を身近な活動をはじめとして実際の行動へとつなげ、地域の担い手となるよう取り組みを進めていくことが必要です。

また、今後の地域を担う子どもたちと高齢者の交流を促すなど、次代を担う子どもたちへの幼少期からの福祉教育の充実を図る取り組みが求められています。



### (3) 多様化・複雑化する課題に対応できる仕組みづくり

国においては、複雑化している地域課題の解決に向け、多様な主体が地域づくりに参加し、世代や分野を超えてつながることで包括的な支援体制を構築する「地域共生社会」の実現を平成 29 年に掲げ、その具体化に向け、平成 30 年 4 月に社会福祉法の一部改正を行うなど改革を進めています。

さらに、令和 3 年 4 月施行の改正社会福祉法により、市町村において住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、「相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する重層的支援体制整備事業の創設などについて規定されました。

住民アンケート調査では、福祉に関心のあると回答した割合は 5 割弱となっています。

関係団体等アンケートにおいても独居の不安や高齢世帯に対する不安の声が多く寄せられており、高齢化の進む地域においては、高齢者世帯への生活支援等が一層重要になると考えられます。一方、近年地域を取り巻く福祉課題は、多様化・複雑化しており、高齢者支援だけでなく、障がいのある人、子ども、生活困窮者の支援や権利擁護、虐待防止などの課題への対応が求められており、分野がまたがる複雑な課題への対応も必要となっています。

また、住民アンケート調査において、町の相談窓口の充実や民生委員・児童委員と専門機関との連携、身近な地域での見守りや支援体制の構築を求める回答が多く出ており、関係団体アンケートでも、今後連携をより深める必要がある組織として、集落や保護者会、民生委員・児童委員や社会福祉協議会といった様々な地域の主体が挙げられました。行政・地域活動団体・関係機関が連携して生活課題を解決する体制を構築していく必要があります。

### (4) 安全・安心な暮らしを守る体制の構築

近年、気候変動に伴う記録的な大雨や大型台風等により、全国各地で甚大な被害が発生しています。令和 3 年に改正された「災害対策基本法」では、頻発する自然災害に対して、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保及び災害対策の実施体制の強化を図ることが示されました。この改正に伴い、市町村においては、避難行動要支援者の個別避難計画の作成が努力義務化されました。

地域においては、災害をきっかけに、支え合い・助け合いの大切さが再認識されています。本町においても、災害時の支え合いのため、自主防災組織と連携体制を強化しています。

住民アンケート調査では、重要な取り組みとして「安心して生活できる安全対策（防犯・防災対策）の充実」「災害時における要援護者への支援体制づくり」「災害、火災、救急などの対応や防災対策」の割合が高くなっています。

関係団体アンケートでは、地域の団体や機関で支援が必要な人の情報の共有が必要といった声や、災害時における体制を充実していくべきとの声がありました。住み慣れた地域での防災を進めるために、引き続き災害・緊急時に支援を必要とする人の把握や、防災に関する意識啓発・情報提供が必要です。また、見守りの必要な人が、日頃から安心して暮らしていくために、交通安全や防犯に対する意識の向上も図る必要があります。

また、住民アンケート調査では、「買い物などの便」、「道路や交通の便」が悪いなどの意見も多くなっています。今後は、移動手段が限られた高齢者が増加することが懸念されます。外出できないことにより、運動機能の低下や要介護状態、認知症に陥ってしまうことを抑制するために、町内での生活における利便性の向上やバリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組み、すべての人にやさしい町をつくっていくことが重要です。また、将来に備えた成年後見制度の利用促進についても取り組んでいく必要があります。

